

畜産事業計画概要

令和 7 年度

茨城県農林水産部畜産課

目 次

畜産関係組織表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

令和7年度当初予算総括表・・・・・・・・・・・・ 3

令和7年度畜産施策方針と重点施策・・・・・・・・ 4

令和7年度畜産施策体系・・・・・・・・・・・・・・ 7

令和7年度事業計画

- 1 銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策・・ 1 2
- 2 家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産・ 2 6
- 3 環境にやさしい資源循環型畜産の実現・・・・・・・・ 4 0
- 4 試験研究の推進と畜産技術の普及促進・・・・・・・・ 4 4

畜産関係組織表

農林水産部畜産課 (県庁代表) 029-301-1111		
課 長	(3970)	
食肉流通合理化担当課長	(3975)	
室 長(家畜衛生対策)	(3972)	
技 佐(畜産振興)	(3971)	
総 括(事務)	(3973)	
総 括(技術)	(3974)	
○畜政(3987, 3977) (直) 029-301-3982 (直) 029-301-3977		
○経営環境(3985, 3986, 3988, 3977) (直) 029-301-3988 (直) 029-301-3977		
○家畜衛生対策室(3980, 3981, 3982, 3983) (直) 029-301-3982		
○生産振興(3990, 3991, 3992, 3993) (直) 029-301-3993		
畜産課FAX 029-301-3999		

			位 置	管 轄 区 域
県北家畜保健衛生所 TEL 029-225-3241 FAX 029-224-6661		防疫指導第一課 病性鑑定第二課	水戸市	水戸市、日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、笠間市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡、久慈郡
			鉾田市	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南家畜保健衛生所 TEL 029-822-8518 (防疫課) TEL 029-822-7262 (衛生指導課) FAX 029-822-4494		防疫指導課	土浦市	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
			筑西市	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡
畜産センター TEL 0299-43-3333 (代) FAX 0299-36-4433		管理施設 企画情報室 飼養技術研究室 生産技術研究室 繁殖技術・ゲノム研究センター	石岡市	
			常陸大宮市	
畜産センター肉用牛研究所 TEL 0295-52-3167 FAX 0295-53-4490		改良研究室 飼養技術研究室	稲敷市	
畜産センター養豚研究所 TEL 029-892-2903 FAX 029-892-3384		育種研究室 飼養技術研究室		

			位 置	管 轄 区 域
県北農林事務所 TEL 0294-87-6680 FAX 0294-80-3304	企画調整部門	振興・環境室畜産振興課	常陸太田市	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡
			水戸市	水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡
鹿行農林事務所 TEL 0291-33-4118 FAX 0291-33-4264	企画調整部門	振興・環境室畜産振興課	鉾田市	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
			土浦市	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西農林事務所 TEL 0296-24-9166 FAX 0296-25-0018	企画調整部門	振興・環境室畜産振興課	筑西市	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

職 員

令和7年4月1日

		本庁	家 畜 保 健 衛 生 所					畜 産 セ ン タ ー				計
			県北	鹿行	県南	県西	小計	センター 本所	肉用牛 研究所	養 豚 研究所	小計	
職 員 定 数 (現 員)		24 (24)	19 (21)	7 (7)	9 (9)	9 (9)	44 (46)	30 (32)	10 (10)	11 (12)	51 (54)	119 (124)
内 訳	事 務 系	4 (4)	1 (1)			1 (1)	2 (2)	4 (8)	1 (1)	1 (1)	6 (10)	12 (16)
	技 術 系	20 (20)	18 (20)	7 (7)	9 (9)	8 (8)	42 (44)	20 (18)	7 (7)	9 (10)	36 (35)	98 (99)
	技 能 労 務 系							6 (6)	2 (2)	1 (1)	9 (9)	9 (9)
備 考												

※ 現員には、育児休業者及び休職者を含む。

		農 林 事 務 所 等							合計
		県北	県央	鹿行	県南	県西	農大	小計	
職 員 定 数 (現 員)		5 (6)	5 (5)	5 (7)	5 (5)	5 (6)	3 (3)	28 (32)	147 (156)
内 訳	事 務 系								12 (16)
	技 術 系	5 (6)	5 (5)	5 (7)	5 (5)	5 (6)	3 (3)	28 (32)	126 (131)
	技 能 労 務 系								9 (9)
備 考									

令和 7 年 度 当 初 予 算 総 括 表

区 分		人件費	その他	計	区 分		人件費	その他	計
		千円	千円	千円			千円	千円	千円
歳 出		1, 290, 041	1, 228, 384	2, 518, 425		1 報 酬	154, 714		154, 714
						2 給 料	629, 553		629, 553
特 定 財 源	国 庫 支 出 金	7, 846	348, 562	356, 408	歳 出 節 別 内 訳	3 職 員 手 当 等	468, 670		468, 670
	負 担 金			0		4 共 済 費	37, 104		37, 104
	使 用 料		2, 701	2, 701		7 報 償 費		1, 555	1, 555
	手 数 料		28, 861	28, 861		8 旅 費		22, 945	22, 945
	財 産 収 入		119, 065	119, 065		10 需 用 費		671, 137	671, 137
	繰 入 金		53, 210	53, 210		11 役 務 費		46, 806	46, 806
	諸 収 入	2, 826	65, 544	68, 370		12 委 託 料		146, 539	146, 539
	県 債			0		13 使 用 料 及 び 賃 借 料		3, 785	3, 785
	計	10, 672	617, 943	628, 615		14 工 事 請 負 費		11, 733	11, 733
						15 原 材 料 費			0
一 般 財 源		1, 279, 369	610, 441	1, 889, 810	計		1, 290, 041	1, 228, 384	2, 518, 425
						17 備 品 購 入 費		86, 165	86, 165
						18 負担金・補助金及び交付金		237, 007	237, 007
						20 貸 付 金			0
						21 補償・補てん及び賠償金		100	100
						22 償還金・利子及び割引料			0
						26 公 課 費		612	612

令和7年度畜産施策方針と重点施策

1 現状及び課題

本県畜産は、令和5年産出額が1,389億円で、農業産出額の約30%を占める基幹産業であり、首都圏を中心とした大消費地への畜産物の供給基地として重要な役割を担っている。

しかしながら、畜産を巡る情勢は、高齢化による担い手の減少や飼料高騰等による生産コストの増大に加え、人口減少の加速化による国内市場の縮小、高病原性鳥インフルエンザやアフリカ豚熱の世界的な流行など大変厳しい状況が続いている。

このような中においても儲かる畜産経営の育成と本県畜産業の振興を推進していくため、生産性の向上や規模拡大、経営・飼養管理技術の高度化等による収益性の高い経営体の育成、長期的な戦略に基づく更なる高付加価値化やブランド化、国内外における積極的な販路開拓等に取り組んでいく。

さらに、国内で発生が頻発している豚熱や高病原性鳥インフルエンザなど家畜伝染病の発生予防やまん延防止対策等を講じるほか、家畜排せつ物の適正処理や有効活用を進めるなど畜産環境対策の徹底を図る。

2 対応方針と重点施策

儲かる畜産経営体の育成と本県畜産業の更なる振興を図るため、必要となる施策を「銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策」、「家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産」、「環境にやさしい資源循環型畜産の実現」、「試験研究の推進と畜産技術の普及促進」の4本の柱に体系化し、関係者との連携強化を図りながら推進するものとする。

(1) 銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策

- ① 「常陸牛」については、更なる品質とブランド力向上を図るため、オレイン酸や小ザシなどの脂肪の質等に着目した新たな肉質基準で厳選する「常陸牛煌」のトップブランド化に向けたフェア開催やPR活動を展開するとともに、「常陸牛煌」で得られた成果を基にオレイン酸含有量やと畜月齢が一定水準以上であることを県が確認し、認定する取組を新たに開始する。また、生産対策として、「常陸牛煌」を始めとした高品質な常陸牛を生産するために、能力の高い繁殖雌牛を効率的に増頭する取組を推進する。さらに、国内外での販売促進活動を支援することで、生産から流通・販売までの対策を一体的かつ戦略的に展開する。
- ② 「常陸の輝き」については、メディアに取り上げられる様な話題性のあるイベント開催により更なる知名度向上を目指すとともに、更なる品質向上のための飼料給与試験を実施する。
- ③ 「奥久慈しゃも」については、実需者から高く評価されている品質を維持出来るよう原種鶏を安定的に供給するとともに、更なる販路拡大に向けて生産から流通販売まで一体的な推進方策について検討を行う。また、本県の鶏卵については、本県産の「こだわり卵」の魅力を全国に発信し、消費拡大を図る。
- ④ 酪農については、優良な後継雌牛の導入支援による中核的な酪農経営体の育成、国産飼料を主体とした経営への転換を推進するとともに、生乳の消費拡大を支援する。

⑤ 畜産経営の規模拡大や生産性の向上による収益性の高い経営体を育成するとともに、食肉の流通体制の合理化を推進する。

⑥ 輸入飼料価格に左右されない安定した畜産経営の実現を図るため、食品残渣等の利用促進や自給飼料の生産拡大の取組を推進し、輸入飼料から国産飼料への転換を図る。

(2) 家畜衛生対策の充実と安全な畜産物の生産

① 家畜伝染病の発生予防対策として、農家自らが行う消毒機器の整備や防鳥ネットの設置等を支援するとともに、飼養衛生管理基準の遵守指導に加え、豚熱対策として、防疫指針に基づく飼養豚へのワクチン接種や野生イノシシへの経口ワクチン散布等を行う。

② 万が一発生した場合のまん延防止対策として、大規模農場での発生を想定し、市町村や関係団体等と一体なった防疫措置態勢を構築するとともに、初動防疫に必要な資材の備蓄や防疫演習を実施する。また、野生いのししでアフリカ豚熱が確認された際の対応について、関係各機関及び関係団体と連携し、まん延防止のための防疫体制を構築する。

③ 「茨城県鳥インフルエンザの発生の予防及びまん延の防止に関する条例」に基づき、発生予防のための研修会の開催や大規模農場の防疫対応計画の策定等、万が一発生の発生に備える。

④ 家畜衛生情報を収集するとともに、診断予防技術の向上や、防疫マップシステムの整備を進め、監視・危機管理体制を強化する他、慢性疾病を低減させるための衛生対策を徹底することにより生産性の向上を図る。

⑤ 農場 HACCP 等の導入を支援するとともに、動物用医薬品の適正使用や、飼料安全性の確保、消費者への飼養管理情報の提供等により安全安心な畜産物の生産を推進する。

(3) 環境にやさしい資源循環型畜産の実現

① 「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づく管理基準の遵守を指導するとともに、家畜排せつ物の管理・利用状況の把握、畜舎排水の適正化指導、臭気の低減対策を推進する。

② 霞ヶ浦・涸沼流域で生産された堆肥について、流域外の農地での利用促進や、家畜排せつ物処理施設の整備や補改修による適正処理の支援、液状肥料利用促進のモデル事例づくりを推進し、霞ヶ浦・涸沼への負荷削減を図る。

③ 良質堆肥を生産する畜産農家とその堆肥を利用する耕種農家との耕畜連携による資源循環型の農業団地を形成し、新たな農業所得向上モデルを確立する。

(4) 試験研究の推進と畜産技術の普及促進

「畜産センター中期運営計画」に基づき、「ブランド力強化を支える先端技術等を活用した新品種・新技術の開発」と「持続可能な畜産及び地球温暖化に対応した技術の開発」に重点的に取り組む。なお、試験の実施にあたっては、畜産課や農林事務所等の行政機関をはじめ、国立研究開発法人並びに大学等の研究機関、関係団体、民間等と連携を図り、効率的かつ効果的に研究に取り組むとともに、常に PDCA サイクル

を回し必要に応じて柔軟に課題等の見直しを行うものとする。

① ブランド力強化を支える先端技術等を活用した新品種・新技術の開発

常陸牛、常陸の輝き、奥久慈しゃもの更なる高付加価値化を図るため、遺伝情報等に基づき品質等に優れた種畜や種鶏の育種改良を進めるとともに、開発した種畜を安定的に供給することでブランド化を支援する。

② 持続可能な畜産及び地球温暖化等を支える技術の開発

地域と調和しながら畜産経営を継続していけるよう、堆肥の有効活用技術や液肥の利用促進に関する研究を進めるとともに、食品残渣の給与実証等に取り組む。

③ 畜産技術の習得支援や人材育成等

生産技術の習得や向上、畜産経営の改善に資する研修等を実施することで、儲かる畜産経営の実現に必要な人材育成に努める。

令和7年4月

農林水産部畜産課長

令和7年度畜産施策体系

(単位：千円)

1 銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策

事業費計

159,202 (前年 181,647)

<小項目>	<事業>	<事業>	<予算額>
家畜改良増殖費 61,622	家畜生産性向上対策事業費 18,981	家畜生産性向上対策事業費補助 優良雌牛地域内流通対策確立 畜産共進会事業費補助	14,574 13,654 920
		家畜生産性向上対策事業費 乳用牛改良対策 肉用牛改良対策 中小家畜改良対策	4,407 418 3,416 573
	ブランド豚肉生産拡大事業費 42,641	ブランド豚肉生産拡大事業費	42,641
畜産振興費 87,857	家畜生産振興事業費 4,447	家畜生産振興事業費 酪農近代化促進事業 種畜検査事業 家畜取引改善事業 家畜人工授精師講習会開催事業 畜舎技術審査 畜産物生産支援指導費	4,447 2,561 165 25 794 213 689
	高品質常陸牛生産対策事業費 83,410	高品質常陸牛生産対策事業費	83,410
飼料対策費 9,723	飼料対策推進事業費 9,723	飼料対策推進事業費	9,723

(単位：千円)

事業費計

60,450 (前年 56,271)

<小項目>	<事業項>	<事業>	<予算額>
畜産物流通対策費 60,450	銘柄畜産物ブランド支援事業費 54,452	銘柄畜産物ブランド支援事業費	54,452
		常陸牛ブランド支援対策	49,562
		県産銘柄豚肉支援対策	1,090
		奥久慈しゃもブランド力強化支援対策	1,000
		いばらきの卵消費拡大支援対策	2,800
	食肉流通合理化促進事業費 974	食肉流通合理化促進事業費	974
		欧米輸出対応食肉処理施設整備構想策定支援費	5,024

(単位：千円)

2 家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産

事業費計

515,186 (前年 604,573)

<小項目>	<事 項>	<事 業>	<予算額>
家畜衛生対策費 52,338	安全・安心な畜産物生産体制確保推進費 31,898	家畜衛生対策事業費 15,898	15,898
		監視体制整備対策	4,255
		家畜の伝染性疾患のまん延防止対策	9,811
		家畜の伝染性疾患の発生予防対策	110
		畜産物安全性向上対策	1,722
		農場防疫対策支援事業費	16,000
	家畜衛生特別対策事業費 19,709	家畜衛生特別対策事業費	14,999
		獣医療提供体制整備事業費	4,710
	動物用医薬品薬事監視費 731	動物用医薬品薬事監視費	731
家畜伝染病予防費 382,990	家畜伝染病予防事業費 382,412	家畜伝染病予防事業費	382,412
	自衛防疫強化総合対策事業費 578	自衛防疫強化総合対策事業費	578
	アフリカ豚熱緊急防疫対策事業費 0	アフリカ豚熱緊急防疫対策事業費	0
家畜保健衛生所費 79,858	家畜保健衛生所費 79,858	家畜保健衛生所運営費	79,858

(単位：千円)

3 環境にやさしい資源循環型畜産の実現

事業費計

109,877 (前年 105,877)

<小項目>	<事 項>	<事 業>	<予算額>
畜産環境保全対策費 109,877	資源循環型畜産確立指導事業費 3,667	資源循環型畜産確立指導事業費	3,667
	良質堆肥広域流通促進事業費 53,210	良質堆肥広域流通促進事業費	53,210
	畜産堆肥循環型農業団地形成モデル事業費 53,000	畜産堆肥循環型農業団地形成モデル事業費	53,000

(単位：千円)

4 試験研究の推進と畜産技術の普及促進

<小項目>	<事 項>	<事 業>	<予算額>
事業費計			
344,536 (前年 351,946)			
畜産振興費	畜産振興推進事業費	畜産経営指導事業費	2,501
36,492	2,501		
	畜政推進費	畜政推進事業費	6,639
	8,864	畜産施策推進対策事業	3,495
		系統豚の分散飼育委託	3,000
		畜産GAP指導員育成	144
		指定助成等事務事業費	2,225
		畜産振興事業受託事務	1,222
		畜産振興補助事業事務事業受託事務	106
		加工原料乳補給金交付業務受託事務	353
		肉用子牛価格安定対策事業受託事務	370
		畜産高度化支援リース対策事業受託事務	174
	畜産経営指導体制円滑化推進事業費	畜産経営指導体制円滑化推進事業費補助	16,125
	16,125	畜産経営指導体制円滑化事業費補助	2,100
		畜産経営改善技術指導事業費補助	10,400
		畜産協会組織強化事業費補助	3,625
	畜産諸費	畜産諸費	9,002
	9,002		
<hr/>			
畜産センター費	畜産センター費	試験研究費・施設整備費等	308,044
308,044	308,044		
	※ 農業経営課バイオテクノロジー試験研究推進費を含む		

※運営費・職員給与費は除いて記載している

1 銘柄畜産物のブランド力強化と 生産振興対策

令和7年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	家畜生産性向上対策事業費補助	新規 <div>継続</div>	国補 <div>県単</div>
予算額	14,574千円		
事業主体	茨城県酪農業協同組合連合会、（公社）茨城県畜産協会		
対象地域	県内全域		
<div>1 事業の目的</div> <div>(1) 優良雌牛地域内流通対策確立推進事業 牛群検定の実施・能力調査による飼養管理改善、優良乳用雌牛の選抜確保並びに作出された優良後継牛の地域内流通、導入に係る経費の補助を行い、地域全体での乳用牛改良を推進するとともに酪農生産基盤の維持・強化を図る。</div> <div>(2) 畜産共進会事業費補助 畜産農家や畜産関係団体が家畜の改良を推進するために参加する畜産共進会の取り組みや関係団体の調整を推進して集約化、効率化を図る。</div>			
<div>2 事業の内容</div> <div>(1) 優良雌牛地域内流通対策確立推進事業13,654千円 ア 事業主体 茨城県酪農業協同組合連合会 イ 補助率 定 額:ウ-(ア)、(イ) b、c、(ウ) 1 / 2 :ウ-(イ) a</div> <div>ウ 事業内容 (ア) 高能力牛の作出 乳用牛改良を推進するために、牛群検定を行う優良農場に対して、改良経費の一部を支援する。 (イ) 優良後継牛の地域内流通円滑化 a 地域内流通マッチングシステム (地域内に乳用雌牛を流通するための体制構築への助成) b 乳用雌子牛の導入支援 (乳用雌子牛の導入に取り組む酪農家に対する補助) c 乳用雌牛（妊娠牛）の導入支援 (妊娠牛の導入に取り組む酪農家に対する補助) (ウ) 円滑な乳用牛継承の推進 廃業する酪農経営体等の乳用牛の地域内継承に対する助成</div>			

(2) 畜産共進会事業費補助

920 千円

ア 事業主体 (公社) 茨城県畜産協会

イ 補助率 定額

ウ 事業内容

家畜の改良増殖を推進するため広域共進会の開催に要する経費の一部を助成する。

名称	主催団体	開催場所	期日
第 16 回全日本ホルスタイン共進会	(一社) 日本ホルスタイン登録協会	北海道ホルスタイン共進会場	R7 年 10 月
第 66 回関東肉牛枝肉共進会	関東肥育牛振興協会	東京都中央卸売市場食肉市場	R7 年 10 月

<過去の予算額>

平成 31 年度 15,353 千円

令和 2 年度 16,470 千円

令和 3 年度 15,553 千円

令和 4 年度 15,153 千円

令和 5 年度 15,553 千円

令和 6 年度 13,874 千円

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	家畜生産性向上対策事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	4, 4 0 7 千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
1 事業の目的			
(1) 乳用牛改良対策 乳用牛雌牛群の能力検定や受精卵移植技術活用を推進し、乳用牛の改良や飼養管理の改善を促進する。			
(2) 肉用牛改良対策 種雄牛を造成するとともに、全国規模での能力評価体制を確立し、優良種雄牛の広域的な利用を推進する。また、繁殖和牛入門講座を開催し、県内の和牛子牛の生産体制を強化する。			
(3) 中小家畜改良対策 家畜改良増殖法、養蜂振興法並びに養鶏振興法の適正な推進を図り、中小家畜の改良増殖を図る。			
2 事業の内容			
(1) 乳用牛改良対策 418 千円 ア 事業主体 県 イ 事業内容 改良目標策定及び牛群検定の結果に基づいた農家指導 受精卵移植技術を活用した優良乳用牛群の整備等			
(2) 肉用牛改良対策 3, 416 千円 ア 事業主体 県 イ 事業内容 高能力種雄牛の選抜、候補種雄牛生産のための繁殖雌牛群の整備と計画交配の推進 正確度の高い能力評価体制の整備等の実施 新規繁殖和牛入門講座の開催			
(3) 中小家畜改良対策 573 千円 ①事業主体 県 ②事業内容 養蜂適正配置推進会議の開催、転飼許可、指導 養鶏振興法に基づくふ化場登録・確認、指導 肉豚出荷動向調査の実施 豚人工授精実習会の開催			

<過去の予算額>

平成 31 年度	4,094 千円
令和 2 年度	3,509 千円
令和 3 年度	4,404 千円
令和 4 年度	5,560 千円
令和 5 年度	4,112 千円
令和 6 年度	4,769 千円

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	ブランド豚肉生産拡大事業	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 国補	<input type="checkbox"/> 県単
予算額	42,641千円				
事業主体	県、茨城県畜産協会				
対象地域	県内全域				
<div>1 事業の目的</div> <div>養豚研究所で開発した系統豚ローズD－1を活用したブランド豚肉「常陸の輝き」について、品質の安定化や生産拡大に向けた取組を実施するため、常陸の輝き推進協議会の運営支援並びにメディアに取り上げられるような話題性のあるイベント開催などによるPR、究極に美味しい豚肉を目指した飼料の給与試験を実施する。</div>					
<div>2 事業の内容</div> <div><div>(1) 事業主体</div><div>県、茨城県畜産協会</div></div> <div><div>(2) 事業内容</div><div><div>ア 常陸の輝き生産対策（委託費、県事務費）</div><div>6,658千円</div><div><div>(ア) 常陸の輝き推進協議会の運営</div><div>(イ) 銘柄推進員の設置</div><div>(ウ) 定期的な肉質分析と食味評価の実施</div><div>(エ) 指定生産者巡回、新規生産者説明会の実施</div><div>(オ) 生産拡大のための販路確保対策</div><div>(カ) 常陸の輝き証明書の発行</div></div></div><div><div>イ イベント開催などのPR対策</div><div>33,029千円</div></div><div><div>ウ 常陸の輝きの品種統一に向けた試験研究（事務費：養豚研究所）</div><div>2,954千円</div><div><div>(ア) 肉質分析・食味評価</div><div>(イ) 飼料の給与試験</div></div></div></div>					
<div><過去の予算額></div> <div><div>令和2年度</div><div>4,327千円</div></div> <div><div>令和3年度</div><div>60,987千円</div></div> <div><div>令和4年度</div><div>28,119千円</div></div> <div><div>令和5年度</div><div>806,333千円</div></div> <div><div>令和6年度</div><div>37,385千円</div></div>					

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（経営環境担当）

事業名	畜産競争力強化対策整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単															
予算額	500,000千円(R6補正)																	
事業主体	畜産クラスター協議会																	
対象地域	県内全域																	
<p>1 事業の目的</p> <p>「総合的なTPP関連政策大綱」に基づき、畜産・酪農の収益性・生産基盤を強化するため、畜産農家をはじめとする地域の関係者が連携し、一体となって地域全体で収益性向上を図る取組を支援する。</p>																		
<p>2 事業の内容</p> <p>(1) 事業内容</p> <p>農業生産法人、農業者、JA、市町村等による畜産クラスター協議会を組織し、収益性の向上や生産基盤の強化を図るための畜産クラスター計画を策定。その計画の達成に必要な施設等の整備に対し助成（補助率 1/2 以内）。</p> <p>(2) 対象施設</p> <p>家畜飼養管理施設、家畜排せつ物処理施設、自給飼料関連施設、畜産物加工、展示・販売施設の整備に要する経費または補改修に要する経費</p> <p>(3) 事業計画</p> <p style="text-align: right;">（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>市町村</th><th>整備内容</th><th>事業費</th><th>補助金額</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常総市</td><td>馴致舎 1 棟、繁殖舎 1 棟、分娩舎 1 棟、離乳舎 1 棟、堆肥舎 1 棟、縦型コンポスト 2 基、付帯施設等</td><td>1,187,597</td><td>500,000</td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">計</td><td>1,187,597</td><td>500,000</td><td></td></tr> </tbody> </table>				市町村	整備内容	事業費	補助金額	備考	常総市	馴致舎 1 棟、繁殖舎 1 棟、分娩舎 1 棟、離乳舎 1 棟、堆肥舎 1 棟、縦型コンポスト 2 基、付帯施設等	1,187,597	500,000		計		1,187,597	500,000	
市町村	整備内容	事業費	補助金額	備考														
常総市	馴致舎 1 棟、繁殖舎 1 棟、分娩舎 1 棟、離乳舎 1 棟、堆肥舎 1 棟、縦型コンポスト 2 基、付帯施設等	1,187,597	500,000															
計		1,187,597	500,000															
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>平成 30 年度 193,400 千円(当初)、 94,046 千円(補正)</p> <p>平成 31 年度 806,959 千円(当初)、 576,363 千円(補正)</p> <p>令和 2 年度 — 、1,188,698 千円(補正)</p> <p>令和 3 年度 — 、 484,918 千円(R2 補正)</p>																		

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	飼料対策推進事業	新規 <div>継続</div>	国補 <div>県単</div>
予算額	9, 7 2 3 千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
1 事業の目的			
飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づき、届出関係の指導を行い、必要に応じて飼料製造業者等への立入検査・収去を実施する。			
併せて、輸入飼料価格に左右されない国産飼料を主体とした畜産経営を推進するため、飼料増産に向けた調査分析、技術確立、普及指導を行うとともに、食品残さの飼料化実証や自給飼料の生産拡大の支援を行う。			
2 事業の内容			
(1) 飼料安全法に基づく飼料製造業者等や畜産農家への立入検査、届出内容の確認指導の実施			
ア 予算額：1,414 千円			
イ 事業内容			
・飼料安全法第 56 条に基づく飼料製造業者等や畜産農家への立入検査を実施し、必要に応じて飼料の収去を行う。			
・法 32 条に基づく表示基準の確認を行う。			
・法 50 条に基づく届出内容の確認、指導。			
(2) 飼料増産に向けた指導、情報収集の実施			
ア 予算額：1,809 千円			
イ 事業内容			
・茨城県自給飼料研修会、茨城県飼料増産推進会議の実施及び各地域飼料増産推進会議への参加			
・牧草、飼料作物、飼料用米、稲 WCS 等の生産拡大及び品質向上指導			
・未利用農産物や食品残渣の飼料化（エコフィード）の推進及び畜産農家とエコフィード製造事業者のマッチング			
(3) 飼料国内自給化緊急対策事業			
未利用農産物や食品残さの飼料化実証や自給飼料の作付面積の拡大を支援			
ア 予算額：6,500 千円			
イ 事業主体：畜産農家、農業者等で構成された組合、コンソーシアム 等			
ウ 補助率：1/2 以内、10 千円/10a			
<過去の予算額>			
平成 31 年度 3,460 千円			
令和 2 年度 3,306 千円			
令和 3 年度 3,306 千円			
令和 4 年度 1,569 千円			
令和 5 年度 3,223 千円			
令和 6 年度 11,973 千円			

令和7年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	高品質常陸牛生産対策事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	83,410千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
1 事業の目的 牛肉のおいしさに関連する遺伝情報に基づき高能力な繁殖雌牛を選定し、県内保留を支援するとともに、受精卵移植技術を活用して「常陸牛煌」を生産する繁殖雌牛を効率的に増頭させる。			
2 事業の内容 (1) 遺伝情報に基づく雌子牛の確保支援 58,000 千円 ゲノミック評価によりオレイン酸割合等の遺伝的能力に優れた雌子牛を選別し、「常陸牛煌」を生産するための繁殖雌牛として県内に保留又は県外から導入する取組に対し支援。 ・補助先：「常陸牛煌」生産者、輸出に取組む生産者 ・補助対象：①ゲノミック評価経費：500 頭 ②雌子牛の確保経費：200 頭 ・補助率：①定額 12 千円 ②1/2 以内（上限 30 万円/頭） (2) 畜産センターへのスーパー雌牛群の整備 13,902 千円 オレイン酸や小ザシなどの脂肪の質に極めて優れた雌牛を県畜産センターに導入し、その雌牛群から生産される受精卵や雌子牛を生産者に供給し「常陸牛煌」の生産を拡大。 (3) 受精卵技術を活用した効率的な繁殖雌牛の増頭 11,508 千円 (1) で保留した雌牛から複数の受精卵を採取し、雌子牛を生産することで「常陸牛煌」を生産する繁殖雌牛を効率的に増頭。 ・高能力繁殖雌牛からの受精卵の採取 ・マッチング支援やコーディネートによる高能力受精卵の県内流通 ・超高能力受精卵の採取及び買い上げ			
＜過去の予算額＞ 令和5年度 75,992 千円 令和6年度 109,106 千円			

令和7年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	銘柄畜産物ブランド支援事業	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	54,452 千円		
事業主体	各生産者団体等		
対象地域	県内全域		
1 事業の目的			
銘柄畜産物の更なるブランド力向上のため、関係団体と連携して、販路拡大対策を行うとともに、新たな付加価値の創出や高品質化に向けた取り組みを推進する。			
2 事業の内容			
(1) 常陸牛ブランド支援対策		49,562 千円	
ア 国内対策（販路拡大高品質化対策）			
(ア) 事業主体 茨城県常陸牛振興協会			
(イ) 補助率 1／2 以内			
(ウ) 事業内容			
首都圏、関西圏への販路開拓への支援、イベント等でのPR活動支援、高品質化・他銘柄との差別化対策推進			
イ 輸出対策			
(ア) 事業主体 茨城県畜産協会			
(イ) 補助率 1／2 以内			
(ウ) 事業内容			
東南アジア等をターゲットにした販路拡大、取引先へのフォローアップ指導、WEBサイトやSNSを活用したPR活動等			
ウ 常陸牛の新たな格付実施体制の整備			
(ア) 事業主体 県（一部委託）			
(イ) 事業内容			
食肉市場での格付体制の整備			
エ 流通・販売対策			
(ア) 事業主体 県			
(イ) 事業内容			
新基準常陸牛のメニューフェア等のイベント開催によるPR活動、メディアを活用した情報発信			
(2) 県産銘柄豚支援対策		1,090 千円	
ア 販路拡大対策			
(ア) 事業主体 銘柄豚振興会			
(イ) 補助率 1／2 以内			
(ウ) 事業内容 指定店拡大の対策			
イ 高品質化支援			
(ア) 事業主体 茨城県畜産協会			
(イ) 補助率 定額			
(ウ) 事業内容 高能力な系統豚「ローズD-1」の普及に対する支援			

(3) 奥久慈しゃもブランド力強化支援対策		1,000 千円
ア	事業主体	農事組合法人奥久慈しゃも生産組合
イ	補助率	1 / 2 以内
ウ	事業内容	G I 登録を契機とした都内百貨店等への販路開拓、地元の観光イベントや 小学校での食育活動等、販促資材の作成等への支援、新規生産者確保に向けた支援
(4) いばらきの卵消費拡大支援対策		2,800 千円
ア	事業主体	県（一部委託）
イ	事業内容	本県産卵の認知度を向上させるための、消費拡大キャンペーン等の PR 活動を実施 販促資材の作成等への支援
<過去の予算額>		
令和 2 年度		9,190 千円
令和 3 年度		12,190 千円
令和 4 年度		22,362 千円
令和 5 年度		37,211 千円
令和 6 年度		52,694 千円

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	食肉流通合理化促進事業費	新規	<input type="checkbox"/> 継続	国補	<input type="checkbox"/> 県単						
予算額	974 千円										
事業主体	県										
対象地域	県内全域										
<p>1 事業の目的</p> <p>県内の食肉流通合理化のため、茨城県食肉流通合理化計画に基づき食肉センターの再編合理化の取組を支援する。</p>											
<p>2 事業の内容</p> <p>（１）事業実施主体 県</p> <p>（２）事業費 974 千円</p> <p>（３）事業内容 食肉センターの再編・整備に関する指導・助言。 HACCP 等の高度な衛生管理の対応に向けた技術的意見聴取、先進事例調査。 茨城県食肉流通合理化推進協議会等の開催。</p>											
<p>＜過去の予算額＞</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">令和 4 年度</td> <td>999 千円</td> </tr> <tr> <td>令和 5 年度</td> <td>974 千円</td> </tr> <tr> <td>令和 6 年度</td> <td>974 千円</td> </tr> </table>						令和 4 年度	999 千円	令和 5 年度	974 千円	令和 6 年度	974 千円
令和 4 年度	999 千円										
令和 5 年度	974 千円										
令和 6 年度	974 千円										

令和7年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	欧米輸出対応食肉処理施設整備構想策定支援	<div>新規</div> 継続	国補 <div>県単</div>
予算額	5, 0 2 4 千円		
事業主体	(株) 茨城県中央食肉公社		
対象地域			
<div>1 事業の目的</div> <p>県内からの常陸牛の欧米輸出を実現するため、茨城県中央食肉公社における欧米輸出対応食肉処理施設整備構想策定の取組みを支援する。</p>			
<div>2 事業の内容</div> <div>(1) 欧米輸出対応食肉処理施設整備構想策定の支援5, 024 千円</div> <div>ア 補助率 1 / 3 以内</div> <div>イ 事業主体 (株) 茨城県中央食肉公社</div> <div>ウ 事業内容</div> <div>以下の業務内容について、専門業者等へ業務支援を委託する費用を補助 整備構想に基づき、基本整備方針の策定、全体レイアウト概略規模設定・総事業費の把握、全体整備スケジュール等を明確にする。</div> <div>(ア) 施設整備基本方針（コンセプト、衛生管理の方向性、運営体制、ライフサイクルコスト、国庫補助活用）の設定</div> <div>(イ) 敷地条件、法令及び条例上の制約条件の整理、設定頭数からの施設規模の前提条件</div> <div>(ウ) 生産ライン及び生産システムの検討（処理頭数、作業工程、作業員配置に基づく最適生産ラインの設定）</div> <div>(エ) 施設計画（全体配置計画、新施設の平面計画、断面計画）の作成</div> <div>(オ) 排水処理施設の計画、既存棟解体工事の計画、構造基本計画、設備基本計画の作成</div> <div>(カ) 収支計画の作成</div>			
<div><過去の予算額></div> <div>令和6年度 2, 603 千円</div>			

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	肉骨粉利用促進事業費	新規	継続	国補	県単
予算額	6,000 千円（R6 補正）				
事業主体	県内レンダリング事業者等				
対象地域	県内全域				
<p>1 事業の目的</p> <p>食肉を生産するうえで発生する牛肉骨粉は、BSE に係る飼料規制により鶏・豚用飼料への利用が規制されていたが、令和 6 年 10 月に規制が解除され利用が再開された。そのため、牛肉骨粉を生産するレンダリング業者が処分から販売に転換する取組を促進するため、鶏・豚用の飼料原料として販売しやすい高品質な牛肉骨粉の製造に必要な機器導入を支援する。</p>					
<p>2 事業の内容</p> <p>(1) 高品質な牛肉骨粉を製造するための機器導入等の支援 6,000 千円</p> <p>ア 補助率 1 / 2 以内</p> <p>イ 事業主体 県内レンダリング事業者等</p> <p>ウ 事業内容 レンダリング業者が高品質な牛肉骨粉を製造するために必要な機械導入等を支援</p> <p>エ 補助要件 製造する肉骨粉の原料に牛を含むこと</p>					
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>令和 6 年度 6,000 千円（補正）</p>					

2 家畜衛生対策の充実と 安全安心な畜産物の生産

令和7年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生対策室担当）

事業名	家畜衛生対策事業費	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単
予算額	15,898千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<div>1 事業の目的</div> <div>(1) 監視体制整備対策 飼養衛生管理基準、特定家畜伝染病防疫指針、畜産物生産ガイドラインの普及・定着を図り、事前対応型防疫体制を整備するなど、監視体制の整備促進を図る。</div> <div>(2) 家畜の伝染性疾患の発生予防対策 広範囲な地域に影響を及ぼす家畜伝染病の発生に備え、防疫体制の充実を図るための防疫演習を行う。</div> <div>(3) 家畜の伝染性疾患のまん延防止対策 家畜の慢性疾患の低減を図るため、検査・調査を行い、疾病予防マニュアルの作成及び必要な管理指導方法等について検討する。</div> <div>(4) 畜産物安全性向上対策 HACCP 方式の考え方に基づく衛生管理マニュアルの導入・普及、安全な鶏卵の供給体制の整備、医薬品の品質確保、薬物残留、薬剤耐性菌等に関する情報を収集することにより畜産物の安全性確保対策の充実・強化を図る。</div>			
<div>2 事業の内容</div> <div>(1) 監視体制整備対策4,255 千円 ア 経費負担区分 国 1/2</div> <div>(ア) 家畜衛生関連情報整備 家畜衛生に関する情報（疾病発生状況、衛生管理状況等）を継続的に収集する。また、危機管理体制を整備するため、畜産経営の衛生関連情報を電子地図（防疫マップ）に蓄積し、家畜保健衛生所において活用できるようにする。</div> <div>(イ) 診断予防技術向上 家畜の伝染性疾患の新たな診断方法、予防技術の確立のための調査方法、調査成績等について検討し、管内において家畜の伝染性疾患の診断及び予防技術確立のため必要となる抗体検査等を行う。</div>			

(2) 家畜の伝染性疾病の発生予防対策	110 千円
ア 経費負担区分 国 1/2	
(ア) まん延防止の円滑化	
(3) 家畜の伝染性疾病のまん延防止対策	9,811 千円
ア 経費負担区分 国 1/2	
(ア) 牛疾病対策	
(イ) 豚疾病対策	
(ウ) 鶏疾病対策	
(4) 畜産物安全性向上対策	1,722 千円
ア 経費負担区分 国 1/2	
(ア) 生産衛生管理体制整備	
(イ) 鶏卵衛生管理体制整備	
(ウ) 動物用医薬品危機管理対策	
＜過去の予算額＞	
令和4年度 15,392 千円	
令和5年度 15,452 千円	
令和6年度 15,785 千円	

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生対策室担当）

事業名	農場防疫対策支援事業費	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単
予算額	16,000千円		
事業主体	市町村、自衛防疫の推進等家畜衛生の向上を目的とする団体等		
対象地域	県内全域		
<div>1 事業の目的</div> <div>口蹄疫、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の発生予防のため、地域一体となったねずみ等の野生動物の侵入防止・駆除、動力噴霧器等の整備、飼養衛生管理向上のための施設整備など、農場のバイオセキュリティ向上のための取組を推進する。</div>			
<div>2 事業の内容</div> <div>(1) 経費負担区分 国 1/2 以内</div> <div>(2) 事業内容</div> <div><div>ア 地域協議会の開催</div><div>イ 野生動物の侵入防止対策、消毒等の防疫対策に必要な資材や、飼養衛生管理向上に資するための施設の整備</div></div>			
<div><過去の予算額></div> <div><div>令和4年度</div><div>16,122千円</div></div> <div><div>令和5年度</div><div>14,325千円</div></div> <div><div>令和6年度</div><div>16,000千円</div></div>			

令和7年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生対策室担当）

事業名	家畜衛生特別対策事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	14,999千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<div>1 事業の目的</div> <div>(1) 家畜衛生技術高度利用促進対策 食の安全・安心を求める消費者ニーズが高まるなかで、畜産経営の安定化及び安全性の高い畜産物の供給体制の確立のため、農家等から依頼される検査を実施する。</div> <div>(2) 放牧繁殖牛衛生特別対策 県内の公共牧場における放牧衛生対策を強化し、強健な乳用牛の育成及び肉用牛の繁殖成績向上を図るため、衛生検査と指導を行う。また、近年発生件数が増加している牛伝染性リンパ腫の調査・研究を行う。</div> <div>(3) 県有種畜の安定供給対策 本県が保有する高能力種雄牛及び系統豚ローズ L-3、ローズ D-1 等において、口蹄疫、豚熱や鳥インフルエンザ等の衛生対策の徹底を図り、系統の維持及び増殖を確保する。</div>			
<div>2 事業の内容</div> <div>(1) 家畜衛生技術高度利用促進対策13,429 千円 ア 経費負担区分 県 10/10 <div>(ア) ヨーネ病検査 (イ) オーエスキー病検査 (ウ) 牛ウイルス性下痢検査 (エ) 牛伝染性リンパ腫検査 (オ) その他の検査</div></div> <div>(2) 放牧繁殖牛衛生特別対策1,208 千円 ア 経費負担区分 県 10/10 <div>(ア) 放牧牛の定期健診、繁殖指導、衛生指導 (イ) ピロプラズマ症感染牛の早期発見、対応 (ウ) 牛伝染性リンパ腫対策のための調査</div></div>			

イ 実施地域

(ア) 県北地域の公共牧場

(イ) 県内肉用牛繁殖農場

<過去の予算額>

令和4年度 14,482 千円

令和5年度 14,423 千円

令和6年度 14,947 千円

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生対策室担当）

事業名	獣医療提供体制整備事業	新規 <div>継続</div>	国補 <div>県単</div>
予算額	4，710千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<div>1 事業の目的</div> <div>(1) 委託事業 海外悪性伝染病等が発生した場合の危機管理体制を整備するとともに、研修会等を開催して獣医師の知識の向上を図る。</div> <div>(2) 獣医師確保 県農林水産部へ就職する獣医師を確保する。</div>			
<div>2 事業の内容</div> <div>(1) 委託事業 ア 事業主体 （公社）茨城県獣医師会 イ 経費負担区分 県 10/10 ウ 事業内容 (ア) 伝染病発生に対応するための危機管理体制の整備 (イ) 高度な獣医療提供に係る研修会等の開催</div> <div>(2) 獣医師確保 ア 事業主体 （公社）茨城県畜産協会 イ 経費負担区分 県 10/10 ウ 事業の内容 獣医学を専攻する予定の高校3年生、獣医学を専攻する大学生に対して修学資金を貸与し、県へ就職する獣医師を確保する。本事業は、農水省の獣医療提供体制整備推進総合対策事業を活用し、修学資金のうち国 1/2、県 1/2 を負担する。</div>			
<div><過去の予算額></div> <div>令和4年度 2,275 千円 令和5年度 2,755 千円 令和6年度 2,755 千円</div>			

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生対策室担当）

事業名	動物用医薬品薬事監視費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	731 千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p>1 事業の目的</p> <p>医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下「法律」）に基づき、国家検定に必要な動物用医薬品の薬事監視を行う。また、適正な動物用医薬品の流通販売を推進するため、販売業者に対して法律及び動物用医薬品等取締規則に基づく薬事監視を強化し、動物薬事の円滑な運用を図る。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>（１）経費負担区分 県 10/10</p> <p>（２）事業内容</p> <p>ア 検定品の抜き取り</p> <p>イ 許可関係事務に係る現場審査</p> <p>ウ 販売業等の監視・指導</p>			
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>令和 3 年度 766 千円</p> <p>令和 4 年度 1,107 千円</p> <p>令和 5 年度 735 千円</p> <p>令和 6 年度 735 千円</p>			

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生対策室担当）

事業名	家畜伝染病予防事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 国補 <input checked="" type="checkbox"/> 県単
予算額	382,412千円		
事業主体	県（実施機関 家畜保健衛生所）		
対象地域	県内全域		

1 事業の目的

(1) 家畜伝染病予防法第5条等に基づく検査及び豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づく飼養豚へのワクチン接種

319,243千円

死亡牛のBSE検査や鳥インフルエンザのサーベイランス検査等、重要な伝染病の監視を行うとともに、国内からの清浄化を図る伝染病や発生した場合に畜産農家に甚大な被害を与える伝染病に対して、家畜伝染病予防法に基づく検査を行い、患畜等を摘発する。

また、2019年12月20日に茨城県が豚熱ワクチン接種推奨地域となったことから、県内の飼養豚に豚熱ワクチン接種を実施するとともに免疫付与状況確認検査、異常豚の病性鑑定等を実施し、豚熱感染防止対策を講じる。

(2) 精度管理体制の整備

4,147千円

家畜保健衛生所における家畜疾病検査の信頼性を確保するため、家畜保健衛生所法施行規則の改正により、検査の準備、検体採取、結果報告等の全ての検査工程を標準作業書による手順で行う精度管理体制を整備することが規定された。このため、検査の記録と保管、職員の研修、機器の定期的な校正や整備等を行う。

(3) 危機管理体制の整備

1,500千円

家畜保健衛生所における家畜疾病検査の信頼性を確保するため、家畜保健衛生所法施行規則の改正により、検査の準備、検体採取、結果報告等の全ての検査工程を標準作業書による手順で行う精度管理体制を整備することが規定された。このため、検査の記録と保管、職員の研修、機器の定期的な校正や整備等を行う。

(4) 家畜伝染病検査体制の強化

31,826千円

家畜の伝染病の迅速で正確な疾病診断のため、家畜保健衛生所の機器・施設を整備するとともに伝染病に備えた防疫機材を整備する。

(5) 家畜伝染病予防事業業務の効率化

16,756千円

野生動物の検体採取等の民間委託や、家畜保健衛生所で実施している検査の検体搬送の外部委託により、交差汚染を防止するとともに、業務の効率化を図る。

(6) 家畜保健衛生所施設の修繕・工事

8,940千円

家畜保健衛生所施設等の修繕及び工事を行うことで、業務中の職員の安全性を確保するとともに、円滑な検査体制を構築する。

2 事業の内容

(1) 家畜伝染病予防法第5条等に基づく検査及び豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づく飼養豚へのワクチン接種 319,243 千円

ア 経費負担区分 国 10/10・国 1/2 以内、県 10/10

イ 事業内容

(ア) ヨーネ病検査

目的：本病の発生及びまん延を防止するために検査を実施する。

実施頭数：4,880 頭

実施対象：乳用牛及び肉用繁殖雌牛（生後 12 か月未満のものを除く）

検査方法：ELISA 検査法等

(イ) 牛伝染性リンパ腫検査

目的：本病の発生及びまん延を防止するために検査を実施する。

実施頭数：1,450 頭

実施対象：肉用繁殖雌牛（生後 12 か月未満のものを除く）

検査方法：ELISA 検査法等

(ウ) 腐蛆病検査

目的：施設園芸、定飼及び移動蜂群の検査を実施し、本病の発生を防止する。

実施群数：4,010 群

実施対象：飼育されている全ての蜂群

検査方法：巣脾の肉眼的検査及び細菌学的検査

(エ) 牛伝達性海綿状脳症検査

目的：牛海綿状脳症特別措置法及び家畜伝染病予防法に基づき、牛海綿状脳症の浸潤状況を把握するとともに、飼料規制等の発生予防対策の検証を行うため、全月齢の BSE を疑う症状のある死亡牛及び起立不能を示す死亡牛の検査を行う。

実施頭数：40 頭

実施対象：BSE を疑う症状のある死亡牛及び起立不能を示す死亡牛

検査方法：ELISA 検査法

(オ) 高病原性鳥インフルエンザ等検査

目的：消費者に信頼される安全安心な鶏卵、鶏肉を生産するため、鳥インフルエンザ監視体制を強化し防疫体制の充実を図る。

実施羽数：2,550 羽

実施対象：定点モニタリング農場（県内の採卵鶏等飼養農場 6～9 月の毎月 1 回）

：強化モニタリング農場（県内 100 羽以上の採卵鶏等飼養農場 年 1 回）

(カ) 家畜伝染性疾病検査（臨床検査等）

目的：経済的損失の大きい各種伝染性疾病の発生を防止するため、適宜立入検査により疾病の発生状況や飼養状況等を確認して防疫指導を行う。

実施頭羽数及び対象

牛伝染性疾病立入検査 77,360 頭

豚伝染性疾病立入検査 1,661,000 頭

鶏伝染性疾病立入検査 16,328,000羽

飼養衛生管理基準の遵守状況確認 県内の家畜飼養農場

(キ) 豚熱ワクチン接種

目的：豚熱感染防止のため、豚熱ワクチン接種を行う。

実施頭数：862,400頭

実施対象：飼養されている豚及びいのしし

(2) 精度管理体制の整備

4,147千円

ア 経費負担区分 国 1/2、県 10/10

イ 事業内容

(ア) 精度管理体制の整備

検査の記録と保管、職員の研修等

(イ) 機器の校正や整備

機器の定期的な校正や整備

(3) 危機管理体制の整備

1,500千円

ア 経費負担区分 国 1/2

イ 事業内容

(ア) 消毒薬の備蓄

口蹄疫対策用：塩素系消毒薬、消石灰等

鳥インフルエンザ対策用：逆性石けん系消毒薬、消石灰等

(イ) 防疫資材の備蓄

防護服、ゴム手袋、帽子、長靴、ゴーグル等

(ウ) 防疫演習の実施

備蓄した消毒薬・防疫資材等を活用し、万一の発生に備え市町村職員や関係団体職員を対象に消毒ポイントの設営及び運営等に関する演習を行う。

(エ) 民間家畜防疫員の任命

民間獣医師の中から県非常勤特別職である家畜防疫員を任命し、特定家畜伝染病防疫指針に基づく防疫措置業務を迅速に実施するための危機管理体制を構築する。

(オ) 防疫備蓄資材施設整備

特定家畜伝染病発生時に必要な資材の備蓄と発生時の円滑な資材搬出を目的として、防疫資材備蓄センター（稲敷市）の敷地内に新たに備蓄倉庫を整備する。

(4) 家畜伝染病検査体制の強化

31,826千円

ア 経費負担区分 国 1/2、県 10/10

イ 事業内容

(ア) 検査体制の整備

高度で迅速な診断技術に必要な検査機器の導入、検査体制維持のために必要な検査機器の整備及び伝染病に備えた動力噴霧器等の防疫機材の整備。

(イ) 施設の改修

正確な検査を実施するための検査環境の整備。

(5) 家畜伝染病予防事業業務の効率化

16,756 千円

ア 経費負担区分 国 1/2

イ 事業内容

(ア) 野生いのしし検体採取等業務委託

豚熱及びアフリカ豚熱の浸潤状況確認検査のための野生イノシシの死体の回収、検体採取、県北家畜保健衛生所への検体送付及び死体回収場所の消毒を委託する。

(イ) 検体運搬の外部委託

遺伝子検査やウイルス分離検査等の県北家畜保健衛生所で行う検査について、鹿行・県南・県西家畜保健衛生所から県北家畜保健衛生所への検体搬入を外部委託する。

(6) 家畜保健衛生所施設の修繕・工事

8,940 千円

ア 経費負担区分 県 10/10

イ 事業内容

(ア) 県北家畜保健衛生所 庁舎プロパン庫・受変電室 止水工事

(イ) 県北家畜保健衛生所 焼却炉配電盤修繕

(ウ) 県北家畜保健衛生所 クマリフト修繕

<過去の予算額>

令和4年度 419,114 千円

令和5年度 451,283 千円

令和6年度 475,339 千円

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生対策室担当）

事業名	自衛防疫強化総合対策事業	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単
予算額	578 千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
1 事業の目的 自衛防疫組織の強化を図るとともに、各種伝染病の発生を防止するため、自衛防疫事業に対して補助する。			
2 事業の内容 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> (1) 自衛防疫強化総合対策事業 578 千円 </div> <div style="margin-left: 20px;"> ア 事業主体 県 （公社）茨城県畜産協会 イ 経費負担区分 国 1/3・1/2 以内、県 1/3・1/2 以内 ウ 事業内容 （ア） 自衛防疫の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 推進会議の開催 ・ 調査資料の作成 ・ 広報活動 </div>			
<過去の予算額> 令和4年度 578 千円 令和5年度 578 千円 令和6年度 578 千円			

令和7年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生対策室担当）

事業名	家畜保健衛生所費	新規 <div>継続</div>	国補 <div>県単</div>
予算額	79,858千円		
事業主体	県		
対象地域	家畜保健衛生所		
<div>1 事業の目的</div> <div>畜産経営の安定向上を図るため、衛生指導体制を確立するとともに、家畜保健衛生業務の効率的運営に資する。</div>			
<div>2 事業の内容</div> <div><div>(1) 経費区分</div><div>県 10/10</div></div> <div><div>(2) 家畜保健衛生所業務の運営</div><div>家畜保健衛生所業務の効率化を図る。</div></div> <div><div>(3) 家畜疾病検査員の設置</div><div><div>・県北家畜保健衛生所 2名</div><div>・鹿行家畜保健衛生所 2名</div><div>・県南家畜保健衛生所 3名</div><div>・県西家畜保健衛生所 4名</div></div></div> <div><div>(4) ダイオキシン測定</div><div>家畜保健衛生所に設置されている焼却炉の測定</div></div> <div><div>(5) 危険物取扱者の配備</div><div>県北家畜保健衛生所に焼却炉運転のための丙種（A 重油）取扱者を配備する。</div></div>			
<div><過去の予算額></div> <div><div>令和4年度 57,399千円</div><div>令和5年度 75,542千円</div><div>令和6年度 78,434千円</div></div>			

3 環境にやさしい資源循環型 畜産の実現

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（経営環境担当）

事業名	資源循環型畜産確立指導事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	3, 6 6 7 千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p>1 事業の目的</p> <p>市町村や関係団体と連携して、畜産経営に起因する環境問題への対応や家畜排せつ物の適正管理と利用促進を図ることにより、地域社会と調和した資源循環型畜産を確立する。</p>			
<p>2 事業の内容</p> <p>(1) 茨城県家畜排せつ物利用促進計画の推進 地域内の畜産環境保全、堆肥の利用促進</p> <p>(2) 畜産経営に起因する環境問題への指導、発生状況調査の実施</p> <p>(3) 家畜排せつ物の処理に関する実態調査及び管理指導の実施</p> <p>(4) 畜舎排水等適正化に関する指導の実施</p> <p>(5) 臭気対策に関する調査・指導</p> <p>(6) 施設整備事業に係る推進事務</p>			
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>令和 4 年度 3, 789 千円</p> <p>令和 5 年度 3, 667 千円</p> <p>令和 6 年度 3, 667 千円</p>			

令和7年度事業計画の概要

畜産課（経営環境担当）

事業名	良質堆肥広域流通促進事業費	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	53,210千円		
事業主体	畜産農家、（公社）茨城県畜産協会、堆肥利用集団		
対象地域	霞ヶ浦・涸沼流域内		
<div>1 事業の目的</div> <p>家畜排せつ物処理施設等の整備による良質堆肥の生産や、畜産農家と耕種農家とのマッチングによる堆肥等の流域外流通の取り組みを支援することで、霞ヶ浦及び涸沼の流入負荷削減を図る。</p>			
<div>2 事業の内容</div> <div><div>(1) 家畜排せつ物処理施設等への整備補助</div><div><div>ア 霞ヶ浦・涸沼流域の畜産農家</div><div>イ 補助率 1/2 以内</div><div>ウ 事業内容 良質堆肥等を生産するための堆肥化施設や污水处理施設等の整備・補改修</div></div></div> <div><div>(2) 広域流通の推進</div><div><div>ア 事業主体 （公社）茨城県畜産協会、堆肥利用集団</div><div>イ 補助率 定額、1/2 以内</div><div>ウ 事業内容</div><div><div>(ア)「茨城県堆肥利用促進協議会」活動支援</div><div>「茨城県堆肥利用促進協議会」に堆肥コーディネーターを設置し、堆肥需要の把握と情報提供を行い、畜産農家と耕種農家のマッチングを図り、堆肥利用集団の組織化を支援する。</div><div>(イ)堆肥利用集団の取組支援</div><div>霞ヶ浦流域内の畜産農家と耕種農家からなる堆肥利用集団の取組を支援する。</div><div><div>a 堆肥等の輸送費補助</div><div>b 堆肥等利用実証ほ設置奨励金</div><div>c 堆肥等散布機の導入補助</div></div></div></div></div> <div><div>(3) 推進事務</div><div><div>ア 事業主体 県</div><div>イ 事業内容</div><div><div>(ア) 堆肥等を利用するための成分分析・土壌診断</div><div>(イ) マッチング部会、環境ワーキングチーム活動費</div><div>(ウ) 堆肥施用モデルの確立（実証ほ設置奨励金、輸送費補助）</div></div></div></div>			
<div><過去の予算額></div> <div><div>令和4年度</div><div>51,878 千円</div></div> <div><div>令和5年度</div><div>53,210 千円</div></div> <div><div>令和6年度</div><div>53,210 千円</div></div>			

令和7年度事業計画の概要

畜産課（経営環境担当）

事業名	畜産堆肥循環型農業団地形成モデル事業費	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単
予算額	53,000千円		
事業主体	農業団地（任意組織）を構成する畜産農家、耕種農家		
対象地域	県内全域		
<div>1 事業の目的</div> <div>良質な堆肥を生産する畜産農家とそれらの堆肥を利用する耕種農家との耕畜連携により、資源循環型の農業団地を形成し、新たな農業所得向上モデルを確立する。</div>			
<div>2 事業の内容</div> <div><div>(1) 畜産農家向け施設・機械等整備支援</div><div><div>ア 事業主体 畜産農家（良質な堆肥を生産し、農業団地の構成員である耕種農家にその堆肥を供給する畜産農家）</div><div><div>イ 補助率 1/2 以内</div><div>ウ 事業内容 堆肥の生産・供給・保管・流通促進や堆肥の品質向上に必要となる施設・機械整備を支援。</div></div></div><div><div>(2) 耕種農家向け堆肥散布・利用支援</div><div><div>ア 事業主体 耕種農家（農業団地の構成員である畜産農家から供給される堆肥を利用する耕種農家）</div><div><div>イ 補助率 (ア)1/2 以内、(イ) 定額</div><div>ウ 事業内容</div><div><div>(ア)堆肥運搬・散布に必要な機械整備補助</div><div>農業団地の構成員である畜産農家で生産される堆肥を自ら運搬・散布するために必要となる機械の導入を支援。</div><div>(イ)堆肥利用農家への購入補助</div><div>農業団地の構成員となる畜産農家で生産される良質堆肥の購入経費の一部を支援。</div></div></div></div></div><div>※（2）支援は農業技術課が所管。</div></div>			
<div><過去の予算額></div> <div>令和6年度 49,000 千円</div>			

4 試験研究の推進と 畜産技術の普及促進

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	畜産経営指導事業費	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	2, 5 0 1 千円		
事業主体	県（委託）		
対象地域	県内全域		
<p>1 事業の目的</p> <p>畜産をめぐる情勢の変化に対応し、経営感覚に優れた畜産経営体を育成するため、生産技術・経営管理の両面から支援指導できる人材の育成及び外部専門家を活用した経営分析・経営指導を行い、収益性・生産性の高い畜産経営体を育成する。</p>			
<p>2 事業の内容</p> <p>（1）補助率 10／10（委託）</p> <p>（2）事業主体 県（委託）</p> <p>（3）事業内容</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 事業推進検討会の開催</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 畜産経営指導者育成セミナーの開催 収益性の高い畜産経営体を育成するため、生産技術・経営管理の両面から支援指導できる人材を育成するセミナーを開催する。</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 個別経営指導の実施</p> <p style="margin-left: 20px;">エ 畜産経営関係情報の提供</p>			
<p><過去の予算額></p> <p>令和 4 年度 2, 5 0 1 千円</p> <p>令和 5 年度 2, 5 0 1 千円</p> <p>令和 6 年度 2, 5 0 1 千円</p>			

令和7年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	畜政推進事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	6,639千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p>1 事業の目的</p> <p>畜産を巡る情勢に対応した施策を推進するため、各種関係業務を実施する。また、畜産経営の近代化、畜産技術の高度化に対応するため、畜産関係指導者に対する研修に参加し、専門的知識を付与する。</p>			
<p>2 事業の内容</p> <p>(1) 畜産施策推進対策事業 3,495 千円</p> <p>ア 経費負担区分 県 10/10</p> <p>イ 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産施策推進のための調査、会議、事業計画概要の作成等 ・各農林事務所の運営費、自動車税、損害賠償保険等 ・畜産関係団体の体制強化を図るための支援指導 ・各農林事務所会議の開催、全国会議への参加等 <p>(2) 系統豚の分散飼育委託 3,000 千円</p> <p>ア 経費負担区分 県 10/10</p> <p>イ 事業内容</p> <p>県内養豚農家による系統豚の飼養管理</p> <p>(3) 畜産 GAP 指導員養成 144 千円</p> <p>ア 経費負担区分 県 10/10</p> <p>イ 事業内容</p> <p>畜産 GAP の指導員養成のための研修会開催</p>			
<p>-----</p> <p><過去の予算額></p> <p>令和4年度 6,730 千円</p> <p>令和5年度 7,793 千円</p> <p>令和6年度 9,293 千円</p>			

令和7年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	指定助成等事務事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	2, 2 2 5 千円		
事業主体	県（受託）		
対象地域	県内全域		
1 事業の目的 畜産関係団体が実施する畜産業振興事業の円滑な実施を図る。			
2 事業の内容 (1) 畜産業振興事業受託事務 1,222 千円 ア 経費負担区分 独立行政法人農畜産業振興機構 10/10 イ 事業内容 独立行政法人農畜産業振興機構が実施する畜産業振興事業の適正かつ円滑な実施のための審査指導等の業務を受託する。 (2) 畜産振興補助事業事務事業受託事務 106 千円 ア 経費負担区分 地方競馬全国協会 10/10 イ 事業内容 地方競馬全国協会が実施する畜産業振興事業の適正かつ円滑な実施のための審査指導等の業務を受託する。 (3) 加工原料乳補給金交付業務受託事務 353 千円 ア 経費負担区分 独立行政法人農畜産業振興機構 10/10 イ 事業内容 独立行政法人農畜産業振興機構が実施する加工原料乳補給金交付業務の適正かつ円滑な実施のための審査指導等の業務を受託する。 (4) 肉用子牛価格安定対策事業受託事務 370 千円 ア 経費負担区分 独立行政法人農畜産業振興機構 10/10 イ 事業内容 公益社団法人茨城県畜産協会への指導を実施する。 (5) 畜産高度化支援リース事務受託事務 174 千円 ア 経費負担区分 一般財団法人畜産環境整備機構 10/10 イ 事業内容 関係団体の指導を行う。			
＜過去の予算額＞ 令和4年度 2,358 千円 令和5年度 2,261 千円 令和6年度 2,243 千円			

令和 7 年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	畜産経営指導体制円滑化推進事業費	新規 <div>継続</div>	国補 <div>県単</div>
予算額	16,125千円		
事業主体	公益社団法人茨城県畜産協会		
対象地域	県内全域		
<div>1 事業の目的</div> <p>国際化時代に対応できる経営体を育成するため、畜産協会の情報発信や家畜改良及び経営安定の支援を行う。また、畜産協会を核とした効率的で横断的な経営指導体制を強化する。</p>			
<div>2 事業の内容</div> <div><div>(1) 畜産経営指導体制円滑化推進事業費補助2,100千円</div><div>ア 補助率 1／2以内</div><div>イ 事業内容</div><div>・家畜改良支援</div><div>家畜改良のための登録や調査指導、審査研修、経営安定対策事業にかかる生産者への周知及び申請手続きの支援等。</div></div> <div><div>(2) 畜産経営改善技術指導事業費補助10,400千円</div><div>ア 補助率 1／3以内</div><div>イ 事業内容</div><div>・畜産コンサルタント職員の設置</div><div>畜産コンサルタント 5名</div></div> <div><div>(3) 畜産協会組織強化事業費補助3,625千円</div><div>ア 補助率 定額</div><div>イ 事業内容</div><div>・常勤役員（専務理事）の設置 1名</div><div>・畜産技術職員の設置 1名</div></div>			
<div><過去の予算額></div> <div>令和4年度 16,625千円</div> <div>令和5年度 16,125千円</div> <div>令和6年度 16,125千円</div>			

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	牛の受精卵移植技術普及定着に関する研究	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																				
試験期間	平成 2 年度～																						
予 算 額	2 5 , 1 5 0 千円																						
摘 要																							
1 試験の目的 場内及び場外における黒毛和種受精卵の採卵及び場内生産受精卵の農家譲渡により、常陸牛の生産拡大に貢献する。 また、場内外の高能力繁殖雌牛における効率的な採卵技術を確立し、常陸牛煌の認定頭数拡大に寄与する。																							
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>試験項目</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>R7 年度</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 場内採卵</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td></td></tr> <tr> <td>イ 受精卵販売</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td></td></tr> <tr> <td>ウ 野外採卵</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td></td></tr> </tbody> </table>				試験項目	R5 年度	R6 年度	R7 年度	備考	ア 場内採卵	○	○	○		イ 受精卵販売	○	○	○		ウ 野外採卵	○	○	○	
試験項目	R5 年度	R6 年度	R7 年度	備考																			
ア 場内採卵	○	○	○																				
イ 受精卵販売	○	○	○																				
ウ 野外採卵	○	○	○																				
(2) 試験計画 ア 当センター飼養黒毛和種供卵牛のうち、延べ 59 頭を供試し、過剰排卵処理を行い、受精卵を採取する。 イ 県内の牛飼養農家等に対し、116 個の受精卵を譲渡する。 ウ 農家飼養黒毛和種から、受精卵採取を行う。																							
(3) 調査項目 ア 効率的な受精卵採取法の検討 イ 受胎率及び産子の追跡調査																							
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <過去の予算額> 令和 4 年度 15, 363 千円 令和 5 年度 22, 890 千円 令和 6 年度 23, 756 千円																							

令和7年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	「常陸牛煌」生産拡大のための牛受精卵の画像診断システムの開発研究	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単																									
試験期間	令和7年度～令和10年度																											
予算額	4,655千円																											
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業																											
<p>1 試験の目的</p> <p>常陸牛のブランド力向上と生産者の所得向上のため、脂肪の質などの美味しさに着目し、全国初の基準で厳選した新ブランド「常陸牛煌」をたちあげた。「常陸牛煌」は仲卸や料理店から高く評価されている一方で、認定状況は全体の数%と低く、認定頭数を増やすためには、脂肪の質に優れた県内産の子牛を生産する高能力繁殖雌牛の増頭が必要である。</p> <p>本研究では、高能力繁殖雌牛を効率的に増頭するために、AIを活用した受精卵診断システムを開発する。</p>																												
<p>2 試験の内容</p> <p>(1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R7 年度</th><th>R8 年度</th><th>R9 年度</th><th>R10 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 受精卵の検索を補助する画像診断システムの構築と撮影条件の検討</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>イ 受精卵の发育段階の判別を補助する画像診断システムの構築</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>ウ 受精卵のランク判別を補助する画像診断システムの構築</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>エ 各画像診断システムの統合と受胎データとの紐づけおよび農家検証</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画</p> <p>受精卵撮影装置を用いて場内採卵および農家採卵で採取された受精卵を撮影し、画像収集を行う。また、複数の画像撮影条件（照明条件、撮影倍率、画像解像度等）で行う。画像に含まれている受精卵の位置情報を記録する。深層学習を用いて、画像から受精卵を検出するAIモデルの作製を行う。</p> <p>作製したAIモデルの評価を行う。各画像撮影条件で得た画像を用いて作成したAIモデルの精度等を比較することで最適な画像撮影条件を決定する。</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>受精卵画像収集、画像撮影条件（照明条件、撮影倍率、画像解像度等）、深層学習</p>					R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	ア 受精卵の検索を補助する画像診断システムの構築と撮影条件の検討	○				イ 受精卵の发育段階の判別を補助する画像診断システムの構築		○			ウ 受精卵のランク判別を補助する画像診断システムの構築			○		エ 各画像診断システムの統合と受胎データとの紐づけおよび農家検証				○
	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度																								
ア 受精卵の検索を補助する画像診断システムの構築と撮影条件の検討	○																											
イ 受精卵の发育段階の判別を補助する画像診断システムの構築		○																										
ウ 受精卵のランク判別を補助する画像診断システムの構築			○																									
エ 各画像診断システムの統合と受胎データとの紐づけおよび農家検証				○																								
<p>＜過去の予算額＞</p>																												

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	優良な常陸牛増産のためのゲノミック 評価に関する試験研究事業	新規 継続	国補 県単
試験期間	令和4年度～令和8年度		
予 算 額	28,627千円		
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業 共同研究：帯広畜産大学 農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門、（独）家畜改良センター		
1 試験の目的 常陸牛のブランド力を向上させ、全国トップブランドの地位を確立させるためには、品質の安定化とエビデンスに基づく他銘柄との差別化が必要である。 肉質6形質（枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚、皮下脂肪厚、歩留、BMS）、脂肪酸（オレイン酸等）について、ゲノミック評価を実施することにより従来よりも早期に優良な常陸牛が増産可能となり、品質の安定化と改良の効率化を図る。 また、小ザシや赤身の旨味に着目した遺伝的改良に取り組むことで、他銘柄との差別化についても検討する。			
2 試験の内容 （1）全体計画 ア 肉質に関する遺伝子のゲノムデータ解析（R4～R8） イ 小ザシに関する遺伝子のゲノムデータ解析（R4～R8） ウ 旨味に関する遺伝子のゲノムデータ解析（R4～R6） （2）試験計画 ア と畜場などで牛のDNAサンプルを1,000検体分採材し、iScanでSNP解析、出荷枝肉情報と合わせてゲノミック評価を行うための訓練群データとする。 また、県内の繁殖雌牛365検体分を家畜改良事業団にゲノミック評価依頼し、県内繁殖雌牛のゲノムデータを集積する。 イ と畜場の牛枝肉断面について1,000検体分、枝肉撮影装置で撮影することで枝肉に入った脂肪の細やかさについて小ザシ指数を測定し、アで得られたSNPデータとの関連解析により小ザシ関連遺伝子を探索する。 （3）調査項目 ア SNPデータ解析、枝肉情報（枝肉情報、ロース芯面積、バラ厚、皮下脂肪厚、歩留、BMS）、オレイン酸含有量 イ 小ザシ指数			
＜過去の予算額＞ 令和4年度 16,807千円 令和5年度 23,182千円 令和6年度 29,802千円			

令和7年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	常陸牛品質向上のための脂肪酸関連遺伝子と美味しさ成分等との関連性の解明	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 国補	県単																																										
試験期間	令和3年度～令和7年度																																														
予 算 額	4, 579千円																																														
摘 要	特別電源所在県学技術振興事業 共同研究：茨城大学																																														
1 試験の目的 脂肪酸合成に関わる遺伝子と常陸牛のおいしさの関連性の検討をおこなう。 また、常陸牛モモ肉の熟成による科学的変化を網羅的に分析し、おいしさ向上に及ぼす影響を検討する。																																															
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>R7 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 脂肪酸関連遺伝子と理化学性状の関連</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>イ 脂肪酸関連遺伝子と香気成分の関連</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>ウ 脂肪酸関連遺伝子と官能評価の関連</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>エ 熟成と理化学性状の関連</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>オ 熟成により変化する香気成分探索</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>カ 熟成による科学的変化と官能評価の関連</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>							R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	ア 脂肪酸関連遺伝子と理化学性状の関連	○	○	○	○		イ 脂肪酸関連遺伝子と香気成分の関連	○	○	○	○	○	ウ 脂肪酸関連遺伝子と官能評価の関連			○	○	○	エ 熟成と理化学性状の関連	○	○	○	○		オ 熟成により変化する香気成分探索	○	○	○	○	○	カ 熟成による科学的変化と官能評価の関連			○	○	○
	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度																																										
ア 脂肪酸関連遺伝子と理化学性状の関連	○	○	○	○																																											
イ 脂肪酸関連遺伝子と香気成分の関連	○	○	○	○	○																																										
ウ 脂肪酸関連遺伝子と官能評価の関連			○	○	○																																										
エ 熟成と理化学性状の関連	○	○	○	○																																											
オ 熟成により変化する香気成分探索	○	○	○	○	○																																										
カ 熟成による科学的変化と官能評価の関連			○	○	○																																										
(2) 試験計画 ア 脂肪酸関連遺伝子と香気成分の関連 香気成分を GCMS 分析し、脂肪酸関連遺伝子と香気成分の関連性を検討する。 また、遊離脂肪酸が香気成分に及ぼす影響について検討する。 イ 脂肪酸関連遺伝子と官能評価の関連 脂肪酸関連遺伝子により変化した理化学性状や香気成分を実際に食べて感じる ことができるか検討する。 ウ 熟成により変化する香気成分探索 ヘッドスペース法および抽出法で捕集した香気成分を GCMS 分析し、熟成による 影響を検討する。 エ 熟成による科学的変化と官能評価の関連 熟成により変化した理化学性状を実際に食べて感じる ことができるか検討する。																																															
(3) 調査項目 ア 脂肪酸関連遺伝子（SCD、FASN、FABP4）、香気成分（ラクトン類）、遊離脂肪酸 量および組成 イ 分析型官能評価（呈味、食感、鼻先香、口中香） ウ 香気成分（ラクトン類、ピラジン類、アルコール類、アルデヒド類） エ 分析型官能評価（呈味、食感、鼻先香、口中香）																																															
＜過去の予算額＞ 令和4年度 6,288 千円 令和5年度 6,690 千円 令和6年度 6,820 千円																																															

令和7年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	未利用資源の飼料利用を促進するための調査研究	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>															
試験期間	令和6年度～令和8年度																	
予 算 額	37,980千円																	
摘 要																		
<p>1 試験の目的</p> <p>飼料の自給率向上のため、食品残渣を利用した飼料であるエコフィードの活用が推進されている。しかし、供給の安定性やハンドリング性、嗜好性等の懸念事項により活用に至っていない。未利用資源の飼料活用により生産コスト低減を目指し、未利用原料の飼料化を推進する。また、受胎率低下等により供用年数並びに生涯生産乳量の低下が課題となっている乳用牛について安定的に生乳生産量を確保するための飼養管理方法の検討を行う。</p>																		
<p>2 試験の内容</p> <p>(1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th><th>R6 年度</th><th>R7 年度</th><th>R8 年度</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 未利用資源の飼料利用を促進するための調査研究</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>イ 疾病予防に関する検討</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画</p> <p>ア 未利用資源の飼料利用を促進するための調査研究 供試動物 ホルスタイン種雌牛（搾乳牛）28 頭 試験期間 通年 検討内容 食品残渣の飼料成分分析、給与試験、乳生産への影響調査</p> <p>イ 疾病予防に関する検討 供試動物 ホルスタイン種雌牛（搾乳牛）28 頭 試験期間 通年 検討内容 乳房炎ワクチンプログラム、蹄病対策、Ca 等サプリメント製剤を活用した周産期管理、暑熱ストレス対策、ゲノミック評価活用による牛群改良、暑熱耐性（スリック）遺伝子保有精液の導入</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>ア 飼料成分分析、乳量・乳質、生乳の官能試験、疾病罹患率等健康状態 イ BCS、乳量、繁殖成績、代謝プロファイル、疾病罹患率等</p>				試験項目	R6 年度	R7 年度	R8 年度	備考	ア 未利用資源の飼料利用を促進するための調査研究	○	○	○		イ 疾病予防に関する検討	○	○	○	
試験項目	R6 年度	R7 年度	R8 年度	備考														
ア 未利用資源の飼料利用を促進するための調査研究	○	○	○															
イ 疾病予防に関する検討	○	○	○															
<p><過去の予算額> 令和6年度 46,968 千円</p>																		

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	飼料作物品種選定試験	新規	継続	国補	県単																												
試験期間	昭和 58 年度～																																
予 算 額	1, 2 2 4 千円																																
摘 要																																	
1 試験の目的 飼料作物優良品種種子利用促進要領(最終改正平成 17 年 8 月 18 日 17 生畜第 1312 号 農林水産省生産局長通知)に基づき、県は県内の自然条件や経営条件に適応性の高い品種を選定し奨励品種として指定するための基礎データを取得する。																																	
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>試験項目</th><th>H26 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>R7 年度</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イタリアンライグラス</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>トウモロコシ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>子実用トウモロコシ</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>						試験項目	H26 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	備考	イタリアンライグラス	○	○	○	○			トウモロコシ	○	○	○	○	○		子実用トウモロコシ		○	○	○		
試験項目	H26 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	備考																											
イタリアンライグラス	○	○	○	○																													
トウモロコシ	○	○	○	○	○																												
子実用トウモロコシ		○	○	○																													
(2) 試験計画 トウモロコシ 供試品種 7 品種予定																																	
(3) 調査項目 トウモロコシ (ア) 調査方法 「系統適応性検定試験実施要領(飼料作物)」に基づく (イ) 主な調査項目 <ul style="list-style-type: none"> ・生育調査：初期生育、雄穂開花期、絹糸抽出期、稈長、折損、病虫害程度等 ・収量調査：熟度、生総重、乾物総重、乾物率、有効雌穂割合等 																																	
<hr/> <過去の予算額> 令和 4 年度 2, 214 千円 令和 5 年度 1, 288 千円 令和 6 年度 1, 482 千円																																	

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	高能力飼料作物選定調査試験		新規	<div>継続</div>	国補	<div>県単</div>
試験期間	平成 26 年度～					
予 算 額	3 7 0 千円					
摘 要	委託元：（一社）日本草地畜産種子協会					
1 試験の目的 飼料作物優良品種種子利用促進要領(最終改正平成 17 年 8 月 18 日 17 生畜第 1312 号農林水産省生産局長通知)に基づき、県は県内の自然条件や経営条件に適応性の高い品種を選定し奨励品種として指定するための基礎データを取得する。 なお、そのデータは本県及び近隣県等の奨励品種等選定のために活用する。						
2 試験の内容						
(1) 全体計画						
試験項目		H26 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
イタリアンライグラス		○	○	○	○	○
トウモロコシ		○	○	○	○	○
(2) 試験計画						
ア イタリアンライグラス 供試品種：R6 秋播き R7 春調査 早生 3 品種 R7 秋播き R8 春調査 晩生 3 品種予定						
イ トウモロコシ 供試品種：5 品種予定						
(3) 調査項目						
ア イタリアンライグラス						
(ア) 調査方法 「系統適応性検定試験実施要領(飼料作物)」に基づく						
(イ) 調査項目						
・生育調査：出穂始、倒伏程度、病虫害程度、草丈等						
・収量調査：生草収量、乾物率、乾物収量等						
イ トウモロコシ						
(ア) 調査方法 「系統適応性検定試験実施要領(飼料作物)」に基づく						
(イ) 調査項目						
・生育調査：初期生育、雄穂開花期、絹糸抽出期、草丈、稈長、倒伏、折損病虫害程度等						
・収量調査：熟度、生茎葉重、生雌穂重、生総重、各乾物率、有効雌穂割合、乾物茎葉重、乾物雌穂重、乾物総重等						
<過去の予算額>						
令和 4 年度 577 千円						
令和 5 年度 369 千円						
令和 6 年度 369 千円						

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	家畜ふん堆肥等の利用促進に向けた調査	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続	国補 <input type="checkbox"/> 県単																				
試験期間	令和 7 年度～令和 9 年度																						
予 算 額	1, 0 7 0 千円																						
摘 要																							
1 試験の目的 耕種側が求める微量要素成分を含めた肥料成分や農家ごとの家畜ふん堆肥等生産情報を蓄積しデータベース化を図るとともに、微量要素成分を加味した家畜ふん堆肥等の施用効果を検証する。全ての結果をもとに本県における指導者および畜産農家向けマニュアルをそれぞれ作成・活用することで、家畜ふん堆肥等の更なる利用を促進する。																							
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>試 験 項 目</th><th>R7 年度</th><th>R8 年度</th><th>R9 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 肥料成分・微量要素成分分析と家畜ふん堆肥等生産情報調査</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td></tr> <tr> <td>② ①のデータベース化作業</td><td></td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td></tr> <tr> <td>③ 家畜ふん堆肥等施用効果検証</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td></tr> <tr> <td>④ マニュアルの作成</td><td></td><td></td><td style="text-align: center;">○</td></tr> </tbody> </table>				試 験 項 目	R7 年度	R8 年度	R9 年度	① 肥料成分・微量要素成分分析と家畜ふん堆肥等生産情報調査	○	○	○	② ①のデータベース化作業		○	○	③ 家畜ふん堆肥等施用効果検証	○	○	○	④ マニュアルの作成			○
試 験 項 目	R7 年度	R8 年度	R9 年度																				
① 肥料成分・微量要素成分分析と家畜ふん堆肥等生産情報調査	○	○	○																				
② ①のデータベース化作業		○	○																				
③ 家畜ふん堆肥等施用効果検証	○	○	○																				
④ マニュアルの作成			○																				
(2) 試験計画 ア 肥料成分・微量要素成分分析と家畜ふん堆肥等生産情報調査 各農林事務所畜産振興課と連携し、堆肥の採取と、アンケート調査を行う。 採取した堆肥の肥料成分及び微量要素成分を把握する。 イ 家畜ふん堆肥等施用効果検証 堆肥施用による水稻栽培実証 2 ヶ所 液肥施用による飼料作物（イタリアンライグラス）栽培実証 1 ヶ所																							
(3) 調査項目 ア 肥料成分・微量要素成分分析と家畜ふん堆肥等生産情報調査 分析項目：水分、pH、EC、灰分、堆肥成分、Si、Fe、Mn、S 等 調査項目：堆肥生産方法（副資材の種類・量、切り返し頻度等） イ 家畜ふん堆肥等施用効果検証 土 壌：水分、pH、EC、可給態 N、交換性塩基、Si、Fe、Mn、S 等 植物体：N、P、K、Si、Fe、Mn、S 収 量：坪刈り 品 質：玄米タンパク含量、整粒歩合、千粒重等																							
<過去の予算額>																							

令和7年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）、養豚研究所

課 題 名	活性汚泥モデルと新規窒素除去反応 アナモックスの利用による畜産廃水 処理技術の高度化	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																																										
試験期間	令和4年度～令和8年度																																												
予 算 額	5,300千円																																												
摘 要	代表機関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門																																												
1 試験の目的 畜産排水を浄化処理し、放流する際に適用される水質汚濁防止法のうち「アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物および硝酸化合物」の厳しい暫定基準値に対応することを目的とし、既存の活性汚泥処理施設の窒素除去能力を高めるために溶存酸素制御による曝気運転条件の最適化の検討とアナモックス菌の発生状況のモニタリングを行う。																																													
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 畜産排水の活性汚泥処理モデルを用いた窒素除去性能比較</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> 溶存酸素濃度制御前の水質測定</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> タイマー制御による溶存酸素濃度制御の効果検証</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> インバーター制御による溶存酸素濃度制御の効果検証</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>イ アナモックス菌の発生状況のモニタリング</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> </tbody> </table>				試験項目	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	備考	ア 畜産排水の活性汚泥処理モデルを用いた窒素除去性能比較							溶存酸素濃度制御前の水質測定	○						タイマー制御による溶存酸素濃度制御の効果検証		○					インバーター制御による溶存酸素濃度制御の効果検証			○	○	○		イ アナモックス菌の発生状況のモニタリング	○	○	○	○	○	
試験項目	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	備考																																							
ア 畜産排水の活性汚泥処理モデルを用いた窒素除去性能比較																																													
溶存酸素濃度制御前の水質測定	○																																												
タイマー制御による溶存酸素濃度制御の効果検証		○																																											
インバーター制御による溶存酸素濃度制御の効果検証			○	○	○																																								
イ アナモックス菌の発生状況のモニタリング	○	○	○	○	○																																								
(2) 試験計画 ア 畜産排水の活性汚泥処理モデルを用いた窒素除去性能比較 低溶存酸素条件下での活性汚泥処理における窒素除去性能を検証する。 イ アナモックス菌の発生状況のモニタリング アナモックス菌未自生の養豚農家污水处理施設を低溶存酸素条件で運転することでアナモックス菌が自然発生するのかモニタリングを行う。																																													
(3) 調査項目 ア 畜産排水の活性汚泥処理モデルを用いた窒素除去性能比較 流入水、曝気槽内汚水、最終処理水の pH、EC、BOD 除去率、窒素成分除去率 イ アナモックス菌の発生状況のモニタリング 曝気槽内汚泥内に含まれるアナモックス菌の DNA 量測定																																													
＜過去の予算額＞ 令和4年度 9,672 千円 令和5年度 8,003 千円 令和6年度 4,500 千円																																													

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	豚舎排水に含まれるりん成分の 肥料利用についての試験研究事業	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単																																								
試験期間	令和 6 年度～令和 9 年度																																										
予 算 額	7, 1 2 7 千円																																										
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業																																										
1 試験の目的 豚舎排水処理における HAP（ヒドロキシアパタイト）法の実用化に向けた検討を行い、豚舎排水から安定的に HAP を生産する条件の解明や実規模反応槽の構造を確立する。また、回収した HAP を肥料利用する際の施用方法や調製方法を確立する。																																											
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">試験項目</th><th style="width: 10%;">R6 年度</th><th style="width: 10%;">R7 年度</th><th style="width: 10%;">R8 年度</th><th style="width: 10%;">R9 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア HAP の析出技術の検討</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ラボスケール試験</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">実規模試験</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>イ HAP の回収方法の検討</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ラボスケール試験</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">実規模試験</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>ウ HAP の利用方法の検討</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>				試験項目	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	ア HAP の析出技術の検討					ラボスケール試験	○	○			実規模試験		○	○	○	イ HAP の回収方法の検討					ラボスケール試験	○	○			実規模試験		○	○	○	ウ HAP の利用方法の検討		○	○	○
試験項目	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度																																							
ア HAP の析出技術の検討																																											
ラボスケール試験	○	○																																									
実規模試験		○	○	○																																							
イ HAP の回収方法の検討																																											
ラボスケール試験	○	○																																									
実規模試験		○	○	○																																							
ウ HAP の利用方法の検討		○	○	○																																							
(2) 試験計画 ア HAP の析出技術の検討 HAP を生産する際の最適な条件について検討する。 実規模試験により HAP を反応回収するシステムを構築する。 イ HAP の回収方法の検討 HAP の回収に適した凝集剤の種類、添加割合について検討する。 実規模試験により HAP を反応回収するシステムを構築する。 ウ HAP の利用方法の検討 りん肥料を HAP で置き換えて栽培試験を行い、施肥効果を検証する。																																											
(3) 調査項目 ア HAP の析出技術の検討 pH、EC、BOD、SS、P04-P、Ca 等 イ HAP の回収方法の検討 pH、EC、BOD、SS、P04-P、Ca、HAP 回収量等 ウ HAP の利用方法の検討 発芽の良否、生草重量、乾物収量等																																											
<過去の予算額> 令和 6 年度 6,613 千円																																											

令和7年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	地鶏供給事業	新規	<div>継続</div>	国補	<div>県単</div>
試験期間	平成 20 年度～				
予 算 額	9， 7 1 1 千円				
摘 要					
1 試験の目的					
本県の銘柄地鶏である「奥久慈しゃも」の原種鶏の維持および種鶏雛の供給により、奥久慈しゃもの生産をサポートし、さらに生産の安定化および品質の維持を図る。また、原種鶏の1つであるしゃも種について次世代原種鶏（次世代しゃも種）を作出し、現行のしゃも種からの切替えを目指す。					
2 試験の内容					
(1) 事業計画					
ア 奥久慈しゃも原種鶏の維持					
イ 奥久慈しゃも種鶏雛の供給					
ウ 次世代しゃも種（J Z J）の作出・選抜					
(2) 事業項目					
ア 奥久慈しゃも原種鶏の維持					
しゃも種J系統：雄 230 羽、雌 630 羽					
名古屋種T系統：雄 80 羽、雌 230 羽					
ロードアイランドレッド種L系統：雄 70 羽、雌 330 羽					
イ 奥久慈しゃも種鶏雛の供給					
しゃも種J系統 ：雄 250 羽/年					
交雑種（T×L） ：雌 1, 800 羽/年					
ウ 次世代鶏しゃも種（J Z J）の作出・選抜					
餌付け時（0 日齢） ：雄 165 羽、雌 176 羽					
一次選抜（120 日齢） ：雄 150 羽、雌 150 羽					
二次選抜（270 日齢） ：雄 75 羽、雌 111 羽					
※一次選抜項目：雄雌ともに体重、不良形質（首曲がり等）					
※二次選抜項目：雄は体重及び精液量、雌は体重及び産卵率					
<過去の予算額>					
令和4年度 5, 596 千円					
令和5年度 8, 074 千円					
令和6年度 7, 568 千円					

令和7年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	奥久慈しゃもの遺伝子解析を用いた 次世代種鶏群育成技術の開発に関する 試験研究事業	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単																																										
試験期間	令和3年度～令和7年度																																												
予 算 額	8,486千円																																												
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業																																												
1 試験の目的 近交退化が危惧される奥久慈しゃも原種鶏のロードアイランドレッド種（L系統）について、近交度を低下させることができ、かつ肉質の維持が可能な次世代鶏の作出手法を確立する。また、ゲノム解析により産卵率に関与する遺伝子の探索を行い、解明された遺伝子の育種への利用効果を検証する。これらにより奥久慈しゃも生産の安定化を目指す。																																													
2 試験の内容 （1）全体計画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">試験項目</th><th style="width: 10%;">R3 年度</th><th style="width: 10%;">R4 年度</th><th style="width: 10%;">R5 年度</th><th style="width: 10%;">R6 年度</th><th style="width: 10%;">R7 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 次世代原種鶏作出技術の確立</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> ・次世代原種鶏能力調査</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> ・地鶏のおいしさ調査</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>イ 産卵率に関与する遺伝子の解明</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> ・遺伝子検査</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td> ・ゲノム育種への応用</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>				試験項目	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	ア 次世代原種鶏作出技術の確立						・次世代原種鶏能力調査	○	○	○			・地鶏のおいしさ調査			○	○	○	イ 産卵率に関与する遺伝子の解明						・遺伝子検査	○	○	○	○	○	・ゲノム育種への応用		○	○	○	○
試験項目	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度																																								
ア 次世代原種鶏作出技術の確立																																													
・次世代原種鶏能力調査	○	○	○																																										
・地鶏のおいしさ調査			○	○	○																																								
イ 産卵率に関与する遺伝子の解明																																													
・遺伝子検査	○	○	○	○	○																																								
・ゲノム育種への応用		○	○	○	○																																								
（2）試験計画 ア 次世代原種鶏作出技術の確立 既存の肉用鶏（JTL）と、外部導入したロードアイランドレッド種 YA 系統を用いて作出した肉用鶏（JTBC1）における生産性や肉質について、各種 40 羽ずつ用いて比較する。 イ 産卵率に関与する遺伝子の解明 YA 系統を用いて作出した戻し交配第一世代（BC1）150 羽から抽出したゲノム DNA を用いて、産卵率向上に関与する遺伝子（SNP）を探索する。																																													
（3）調査項目 ア 次世代原種鶏作出技術の確立 育成率、生存率、体重、産卵率、個卵重および飼料要求率、肉質 イ 産卵率に関与する遺伝子の解明 個体ごとの遺伝子型、各 SNP における産卵率との関連																																													
＜過去の予算額＞ 令和4年度 8,401 千円 令和5年度 11,782 千円 令和6年度 13,536 千円																																													

令和7年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	排せつ物管理からの温室効果ガスを低減する採卵鶏育雛飼料の研究開発		新規	<div>継続</div>	国補	<div>県単</div>																														
試験期間	令和4年度～令和8年度																																			
予 算 額	3, 0 0 0 千円																																			
摘 要	代表機関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門																																			
<div>1 試験の目的</div> <p>温室効果ガス（GHG）の削減は世界的に重要な課題とされている。特に家畜排せつ物管理に由来する GHG は農業分野から排出される GHG の約2割を占めている。近年、飼料の CP 含量を低減し、結晶性アミノ酸添加によりアミノ酸バランスを整えたアミノ酸バランス改善飼料（以下バランス飼料）の研究開発が進められている。先行研究で、成鶏期の採卵鶏へのバランス飼料給与で生産性に影響なく、堆肥化過程の GHG 排出削減効果が認められた。そこで育成期の採卵鶏へのバランス飼料給与による生産性および GHG 排出量への影響を検討する。</p>																																				
<div>2 試験の内容</div> <div>(1) 全体計画</div> <table><tr><td>試験項目</td><td>R4 年度</td><td>R5 年度</td><td>R6 年度</td><td>R7 年度</td><td>R8 年度</td></tr><tr><td>飼料 CP 低減率の検証</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>育雛用アミノ酸バランス改善飼料給与技術の開発</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>GHG 排出抑制効果の検証</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>農家実証試験</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr></table> <div>(2) 試験計画</div> <div>ア 育雛用アミノ酸バランス改善飼料給与技術の開発</div> <p>鶏種の影響調査のためジュリアおよびボリスブラウンを供試鶏とし、アミノ酸充足率の検討（日本飼養標準ベース 100%、110%、120%）を行う。令和6年度発生の成鶏期ジュリアにバランス飼料を給与し、鶏卵生産性への影響を検討する。</p> <div>イ 農家実証試験</div> <p>実証試験農家においてボリスブラウンを供試鶏とし大雛期への給与試験を実施する。大雛期終了後は実証試験農家の成鶏飼料を給与し成鶏後の産卵率への影響を調査する。</p> <div>(3) 調査項目</div> <div>ア 育雛用アミノ酸バランス改善飼料給与技術の開発</div> <p>増体、飼料摂取量、窒素出納、産卵成績等</p> <div>イ 農家実証試験</div> <p>増体、窒素排せつ量、産卵成績等</p>							試験項目	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	飼料 CP 低減率の検証	○	○	○			育雛用アミノ酸バランス改善飼料給与技術の開発		○	○	○		GHG 排出抑制効果の検証		○	○	○	○	農家実証試験				○	○
試験項目	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度																															
飼料 CP 低減率の検証	○	○	○																																	
育雛用アミノ酸バランス改善飼料給与技術の開発		○	○	○																																
GHG 排出抑制効果の検証		○	○	○	○																															
農家実証試験				○	○																															
<div><過去の予算額></div> <div>令和4年度 2,600 千円</div> <div>令和5年度 3,100 千円</div> <div>令和6年度 3,000 千円</div>																																				

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター肉用牛研究所（改良研究室）

課 題 名	後代検定事業	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補	<input checked="" type="checkbox"/> 県単												
試験期間	昭和 27 年度～																
予 算 額	32,096 千円																
摘 要																	
1 試験の目的 常陸牛をはじめ肉用牛を安定的に生産するために、県肉用牛広域後代検定推進事業実施要領に基づき、後代検定により高能力な種雄牛を計画的に作出し、優良凍結精液を生産供給することで産肉能力の高い子牛生産を支援する。																	
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th></th> <th>R 7 年度</th> <th>R 8 年度</th> <th>R 9 年度</th> <th>R 10 年度</th> <th>R 11 年度</th> </tr> <tr> <td>後代検定事業の実施</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>							R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度	R 11 年度	後代検定事業の実施	○	○	○	○	○
	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度	R 11 年度												
後代検定事業の実施	○	○	○	○	○												
(2) 試験計画（飼養頭数、凍結精液生産及び供給本数） 【繁養種雄牛】 ア 種雄牛 3 頭：優良凍結精液を生産供給する種雄牛 北平関、那珂茂晴、稲乃大重 イ 候補種雄牛 10 頭：後代検定を実施している、または今後実施する種雄牛 夢美桜、柴咲幸、那珂桜、夢美関、塙乃木坂、歩茶丸、福久関、美津桜 3610、 胡利治、美音楽 3 ウ 凍結精液の生産及び譲渡計画 生産本数 12,000 本、 譲渡本数 4,000 本																	
(3) 調査項目 ア 和牛産肉能力検定（現場後代検定法）に基づき、当該候補種雄牛の産子を肥育する。 イ 枝肉成績から育種価に基づく遺伝的能力評価を行い本県繁殖雌牛の血統構成や市場性を考慮した期待度の高い候補種雄牛を選抜し、優良凍結精液の供給を行う。 ウ 新たな種雄牛作出に向けた県内繁殖牛の産肉能力データの収集や交配指導の実施を行う。 (ア) 本年度に後代検定終了・評価する候補種雄牛 2 頭（夢美桜、柴咲幸） (イ) 本年度も継続して検定を実施する候補種雄牛 2 頭（那珂桜、夢美関） (ウ) 本年度に後代検定を開始する候補種雄牛 2 頭（塙乃木坂、歩茶丸） (エ) 本年度に試験交配を実施する候補種雄牛 2 頭（福久関、美津桜 3610）																	
＜過去の予算額＞ 令和 4 年度 29,806 千円 令和 5 年度 35,906 千円 令和 6 年度 36,945 千円																	

令和7年度事業計画の概要

畜産センター肉用牛研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	高能力繁殖雌牛供給事業	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補	<input checked="" type="checkbox"/> 県単												
試験期間	令和6年度～																
予 算 額	6,593千円																
摘 要																	
1 試験の目的 新たな常陸牛のトップブランドを目指す「常陸牛煌」の生産基盤強化・生産拡大に向けた取組みのひとつとして、ブランド基準のひとつであるオレイン酸能力が高い繁殖雌牛を選抜し、育成、受胎させた後、畜産農家に供給することで、県内の高能力繁殖雌牛の増頭を図る。併せて、繁殖不良となった雌牛を放牧地にてリハビリし、繁殖機能の回復を図るとともに繁殖に供さない子牛の育成・出荷拠点として飼養管理を行う。																	
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 10 年度</th><th>R 11 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高能力繁殖雌牛の供給</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td></tr> </tbody> </table>							R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度	R 11 年度	高能力繁殖雌牛の供給	○	○	○	○	○
	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度	R 11 年度												
高能力繁殖雌牛の供給	○	○	○	○	○												
(2) 試験内容 ア 高能力繁殖雌牛の飼養管理および供給体制の構築 ・高能力繁殖雌牛（育成）の飼養・繁殖管理を行う。 ・外部導入牛を一時的に繋留、BLV（牛伝染性リンパ腫）の着地検査を実施し、感染状況により、陰性牛は清浄化農場である畜産センターへ管理替え、陽性牛は当所で継続的に飼養・繁殖管理を行うなど飼養管理場所等の分けを行う。 ・BLV の感染状況による飼養区画の分け変更などに対応した飼養管理体制の整備等を行う。 イ 放牧を活用した繁殖雌牛のリハビリ等 繁殖不良となった雌牛を放牧地にてリハビリし、繁殖機能の回復を図る。また、繁殖に供さない子牛を畜産センターから管理替えし、育成・出荷拠点として飼養管理を行う。																	
<過去の予算額> 令和6年度： 2,502 千円																	

令和7年度事業計画の概要

畜産センター肉用牛研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	畜産からの GHG 排出削減のための 技術開発	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																								
試験期間	令和4年度～令和8年度																										
予 算 額	1,000千円																										
摘 要	令和7年度みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち 農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究） 代表機関：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門																										
1 試験の目的 ＜堆肥化処理における精密管理による N ₂ O 削減技術の開発＞ 堆肥化処理過程において発生する、温室効果ガスの一酸化二窒素（N ₂ O）等の発生箇所 の特定方法の開発および最適な亜硝酸酸化細菌の添加方法の開発により、堆肥化処理 過程から発生する N ₂ O の発生量を 30%削減する堆肥化処理方法を開発する。																											
2 試験の内容 （1）全体計画（堆肥化処理における精密管理による N ₂ O 削減技術の開発） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>R7 年度</th><th>R8 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N₂O 発生センシング ・可視化方法の開発</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>N₂O 発生を低減する 亜硝酸酸化細菌添加法の開発</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>堆肥化処理過程からの N₂O 発生低減効果の検証</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>					R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	N ₂ O 発生センシング ・可視化方法の開発	○	○				N ₂ O 発生を低減する 亜硝酸酸化細菌添加法の開発			○	○		堆肥化処理過程からの N ₂ O 発生低減効果の検証				○	○
	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度																						
N ₂ O 発生センシング ・可視化方法の開発	○	○																									
N ₂ O 発生を低減する 亜硝酸酸化細菌添加法の開発			○	○																							
堆肥化処理過程からの N ₂ O 発生低減効果の検証				○	○																						
（2）試験計画 肉用牛研究所の直線型堆肥化処理施設において、肉用牛での堆肥化処理過程から 発生する N ₂ O の発生箇所特定方法（N ₂ O による N ₂ O 発生可視化）の開発および最適な 亜硝酸酸化細菌の添加方法の開発にかかる定期的な発生ガス・堆肥等のサンプリン グや亜硝酸酸化細菌源（戻し堆肥）添加による N ₂ O と N ₂ O 発生抑制効果の検証を実施。																											
（3）調査項目 <ul style="list-style-type: none"> ・一酸化二窒素（N₂O）・メタン（CH₄）ガスフラックス ・硝化細菌数 ・無機態窒素成分濃度 ・堆肥処理施設の外気温・堆肥温度等 ・グリーンスロイミン亜硝酸試薬による N₂O 発生可視化（手法の検討） ・亜硝酸酸化細菌源添加による N₂O と N₂O 発生抑制効果（手法の検討） 																											
＜過去の予算額＞ 令和4年度： — 千円 令和5年度： 3,000 千円 令和6年度： 1,000 千円																											

令和7年度事業計画の概要

畜産センター肉用牛研究所（改良研究室）

課 題 名	非ゲノム情報活用による雄牛繁殖性 予測事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>								
試験期間	令和6年度～令和8年度										
予 算 額	500千円										
摘 要	JRA畜産振興事業（共同研究・受託） 事業実施主体：東京農工大学 共同研究機関：農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門、広島県、鳥取県畜産試験場、岐阜県畜産研究所、島根県畜産技術センター										
1 試験の目的 牛用に開発されたDNAメチル化マイクロアレイを利用した環境要因のモニターとしてのDNAメチル化変化の把握と、若い月齢の黒毛和種雄牛から採取した凍結精液について受胎性評価技術の開発を目指す。											
2 試験の内容 （1）全体計画 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td></tr> <tr> <td>精液受胎性評価データの取得、精液及び調査データの提供</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">○</td></tr> </table>					R6年度	R7年度	R8年度	精液受胎性評価データの取得、精液及び調査データの提供	○	○	○
	R6年度	R7年度	R8年度								
精液受胎性評価データの取得、精液及び調査データの提供	○	○	○								
（2）試験計画 現地実証試験として、若雄牛（1.5～2歳齢、2頭）及び成熟牛から採取した凍結前後の精液について、精液品質に関する項目（一般性状、運動性情報）のデータを取得する。											
（3）調査項目 <ul style="list-style-type: none"> ・一般性状 pH、量、生存率、正常形態精子率等 ・精子運動性 運動精子数、不動精子数、精子運動率、運動精子濃度、総運動精子数 直線速度、曲線速度等 ・人工授精成績 											
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <過去の予算額> 令和6年度： 500千円											

令和7年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（育種研究室）

課 題 名	大ヨークシャー種改良普及試験	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																								
試験期間	昭和45年度～																										
予 算 額	9,824千円																										
摘 要																											
1 試験の目的 大ヨークシャー種は、本県産銘柄豚肉の「常陸の輝き」をはじめとする高品質豚肉生産における雌系の種豚である。農家のニーズなどを元に設定した改良目標に沿って遺伝資源（精液）を外部導入する開放型育種手法により、高能力純粋種豚を作出・供給する。																											
2 試験の内容 （1）全体計画 精液を外部導入して「ローズW-2」由来既存群への交配・選抜を行うとともに、育成豚及び人工授精用精液を県内養豚農家に供給する。																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 改良目標の設定</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>イ 外部精液の導入</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>ウ 交配・選抜、農家への供給</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>				試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	ア 改良目標の設定	○					イ 外部精液の導入			○	○		ウ 交配・選抜、農家への供給	○	○	○	○	○
試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度																						
ア 改良目標の設定	○																										
イ 外部精液の導入			○	○																							
ウ 交配・選抜、農家への供給	○	○	○	○	○																						
（2）試験計画 ア 改良目標 生存産子数 12頭、3週齢総体重 64kg、一日平均増体重 950g イ 常時飼養頭数 種雄豚 6頭、種雌豚 18頭 ウ 養豚農家への供給予定 育成豚 14頭、精液 120本																											
（3）調査項目 ア 繁殖成績 生存産子数、3週齢総体重等 イ 産肉能力 一日平均増体重、背脂肪厚、ロース断面積等 ウ 集団の遺伝構成 平均血縁係数、平均近交係数																											
＜過去の予算額＞ 令和4年度 9,127千円 令和5年度 6,371千円 令和6年度 9,337千円																											

令和7年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	系統豚維持試験 (ランドレース種、デュロック種)	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>												
試験期間	(ランドレース種) 昭和 62 年度～、(デュロック種) 平成 29 年度～														
予 算 額	5 8, 0 9 1 千円														
摘 要															
1 試験の目的 ランドレース種系統豚「ローズL－3」、「ローズL－4」及びデュロック種系統豚「ローズD－1」を、本県の銘柄豚や高品質豚肉生産の基礎豚として、長期間安定して利用できるように、近交係数・血縁係数の上昇を最小限に抑えながら、維持及び供給を行う。															
2 試験の内容 (1) 試験計画 系統豚「ローズL－3」、「ローズL－4」及び「ローズD－1」の主要形質（繁殖成績や産肉成績等）や集団の遺伝的構成などを調査し、系統豚「ローズL－3」、「ローズL－4」及び「ローズD－1」を維持する。また、育成豚や精液を希望する養豚農家に配布する。															
① 系統集団維持飼養頭数 <table border="1"> <tr> <td></td><td>L－3</td><td>L－4</td><td>D－1</td></tr> <tr> <td>種雄豚</td><td>5 頭</td><td>10 頭</td><td>22 頭</td></tr> <tr> <td>種雌豚</td><td>30 頭</td><td>50 頭</td><td>48 頭</td></tr> </table>					L－3	L－4	D－1	種雄豚	5 頭	10 頭	22 頭	種雌豚	30 頭	50 頭	48 頭
	L－3	L－4	D－1												
種雄豚	5 頭	10 頭	22 頭												
種雌豚	30 頭	50 頭	48 頭												
②養豚農家への配布予定頭数 <table border="1"> <tr> <td></td><td>L－3</td><td>L－4</td><td>D－1</td></tr> <tr> <td>育成豚</td><td>50 頭</td><td>100 頭</td><td>80 頭</td></tr> <tr> <td>精液</td><td>10 本</td><td>60 本</td><td>3,600 本</td></tr> </table>					L－3	L－4	D－1	育成豚	50 頭	100 頭	80 頭	精液	10 本	60 本	3,600 本
	L－3	L－4	D－1												
育成豚	50 頭	100 頭	80 頭												
精液	10 本	60 本	3,600 本												
(2) 調査項目 ①繁殖成績 生産頭数（生存産子数）、哺乳開始頭数 育成率等 ②産肉能力等 一日平均増体重、背脂肪厚、ロース断面積、筋肉内脂肪含量等 ③集団の遺伝構成 平均血縁係数、平均近交係数、遺伝的寄与率変動係数															
< 過去の予算額 >															
令和4年度	30,899 千円														
令和5年度	65,676 千円														
令和6年度	42,107 千円														

令和7年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	高品質な常陸の輝き生産に向けた 遺伝子解析技術の開発に関する研究	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単																														
試験期間	令和5年度～令和9年度																																
予 算 額	14,835千円																																
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業 共同研究：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構																																
1 試験の目的 「常陸の輝き」の更なる高品質化と安定生産に寄与するため、霜降り（高 IMF）と赤身のうま味（遊離アミノ酸 FAA）に関連する遺伝子候補領域を特定し、その領域を持った豚を選抜することにより次世代デュロック種系統豚を開発（R9 年度以降）する。																																	
2 試験の内容 （1）全体計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>R7 年度</th><th>R8 年度</th><th>R9 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア IMF の遺伝的改良手法の開発</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>イ FAA の遺伝的改良手法の開発</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>ウ ア・イで確立した手法の効果確認</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>エ 豚肉のおいしさに関する調査</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>				試験項目	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	ア IMF の遺伝的改良手法の開発	○	○	○	○		イ FAA の遺伝的改良手法の開発	○	○	○	○		ウ ア・イで確立した手法の効果確認				○	○	エ 豚肉のおいしさに関する調査		○	○	○	○
試験項目	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度																												
ア IMF の遺伝的改良手法の開発	○	○	○	○																													
イ FAA の遺伝的改良手法の開発	○	○	○	○																													
ウ ア・イで確立した手法の効果確認				○	○																												
エ 豚肉のおいしさに関する調査		○	○	○	○																												
（2）試験計画 ア IMF・FAA の遺伝的改良手法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ローズD－1 産子（計 120 頭/年） ・120 頭に対し 105 kg 時点の採血を実施 イ アで確立した手法の効果確認 ウ 豚肉のおいしさに関する調査 <ul style="list-style-type: none"> ・確立した遺伝的選抜手法による高 IMF・FAA の選抜群、作出された肉豚（LWD 種） 																																	
（3）調査項目 ア IMF・FAA の遺伝的改良手法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・30-105kg における 1 日平均増体重(g) ・105kg 時の体尺値(体長、背脂肪厚、ロース断面積) ・105kg 到達後、と畜し、ロース芯の IMF・FAA 分析 ・ローズD－1 の SNP 解析を実施し、IMF・FAA に関連する遺伝領域の探索 ・血中アミノ酸と IMF 値の相関について調査 イ アで確立した手法の効果確認 ウ 豚肉のおいしさに関する調査 <ul style="list-style-type: none"> ・選抜群を活用して作出された肉豚の食味への影響 ・FAA 値の違いによって食べた時に感じる違いについて 																																	
<過去の予算額> 令和5年度 10,363 千円 令和6年度 11,768 千円																																	

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（育種研究室）

課 題 名	デュロック種系統造成試験	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続	国補 <input checked="" type="checkbox"/> 県単					
試験期間	令和 6 年度～令和 13 年度							
予 算 額	4, 6 3 7 千円							
摘 要								
1 試験の目的 常陸の輝きをはじめとした県内ブランド豚肉の高品質化と生産性の向上を図るため、現在利用されているデュロック種系統豚「ローズD－1」の後継豚となる優秀な豚の系統造成を行う。								
2 試験の内容 (1) 全体計画								
試験項目	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度	R13 年度
ア 目標設定	○							
イ 精液・基礎豚導入	精液	精液	精液 基礎豚					
ウ 系統造成				第一世代	第二世代	第三世代	第四世代	第五世代
系統豚完成時集団規模は、雄 10 頭、雌 40 頭を予定している。								
(2) 令和 7 年度試験計画 ア 目標値 ① 筋肉内脂肪含有量 (IMF) : 6% ② 1 日平均増体重 (DG) : 1,050 g ③ ロース断面積 (EM) : 38 cm ² ※目標値は基礎集団の測定値等を基に決定するため、今回は仮の数値である。 イ 基礎豚 ローズD－1、国内精液、他県系統豚等 ウ 系統造成 基礎豚生産のための育成・選抜を以下のとおり行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・一次選抜：一腹から雌 2 頭、去勢 1 頭（肉質分析用）を体重約 30kg 時に選抜する。 ・産肉検定：一次選抜豚について体重 30kg～105kg 時の DG 等を測定する。 また 105 kg 時にアイミートを実施し、ロース断面積を測定する。 ・二次選抜：体重 105kg 時に各腹から雌 1 頭計 20 頭を選抜し次世代生産のための人工授精に用いる。 ・精液選定：人工授精に用いる精液を選定し、外部から導入する。 ・肉質分析：二次選抜で漏れた雌 1 頭、去勢 1 頭の IMF を測定する。 肢蹄・体型等は独立淘汰法による								
<過去の予算額>								

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	「ALL IBARAKI！常陸の輝き」の品質 向上試験	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>								
試験期間	令和 7 年度										
予 算 額	2, 7 7 3 千円										
摘 要											
1 試験の目的 「常陸の輝き」は IMF に特徴があるブランド豚肉であるが、農家ごとに IMF にばらつきがある。そのため、肥育後期飼料の成分及び給与期間が増体や肉質に与える影響を調査し、IMF を高位平準化する手法の開発を目指す。											
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1" data-bbox="244 875 1291 1046"> <thead> <tr> <th>試験項目</th><th>R7 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肥育試験</td><td>○</td></tr> <tr> <td>肉質分析</td><td>○</td></tr> <tr> <td>常陸の輝き農家からの情報収集</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>				試験項目	R7 年度	肥育試験	○	肉質分析	○	常陸の輝き農家からの情報収集	○
試験項目	R7 年度										
肥育試験	○										
肉質分析	○										
常陸の輝き農家からの情報収集	○										
(2) 試験計画 ア 調査豚 場内生産した LWD イ 調査豚の選定 同時期分娩の 5 腹から均一に選定し試験を設定する。 ウ 試験区分 対照区及び試験区とし、各区 10 頭（去勢 5 頭、雌 5 頭）とする。 対照区は、常陸の輝き生産マニュアルに準じ、生産方法および給与飼料を決定。											
(3) 調査項目 発育成績（DG）、枝肉成績、肉質分析（IMF 等）、官能評価、飼料分析											
<過去の予算額>											

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室、企画情報室）、肉用牛研究所

課 題 名	自給飼料生産・加工指導対策事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																
試験期間	平成 14 年度～																		
予 算 額	2,947 千円																		
摘 要																			
1 試験の目的 飼料作物の生産、調製及び貯蔵を行い、また、放牧地の更新により牧養力向上に努めることで、センター繫養牛に年間を通して平衡給与を実施し、効率的な研究推進を図る。 畜産物に関する食育の推進と、畜産への理解を深めるため、県民を対象として畜産物加工体験を実施する。																			
2 試験の内容 (1) 全体計画 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>試験項目</th><th>R7 年度</th><th>R8 年度</th><th>R9 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 自給飼料生産（本所）</td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>イ 自給飼料生産（肉研）</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>ウ 加工指導対策</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>				試験項目	R7 年度	R8 年度	R9 年度	ア 自給飼料生産（本所）		○	○	イ 自給飼料生産（肉研）	○	○	○	ウ 加工指導対策	○	○	○
試験項目	R7 年度	R8 年度	R9 年度																
ア 自給飼料生産（本所）		○	○																
イ 自給飼料生産（肉研）	○	○	○																
ウ 加工指導対策	○	○	○																
(2) 実施内容 ア 自給飼料生産（本所） R2 年度まで自給飼料生産の一部委託（作業委託面積：とうもろこし 8.0ha、牧草 7.0ha） R3 年度から R7 年度までは地力回復を図るため、一部ほ場の自給飼料生産を休止して堆肥散布や排水対策等による土壌改良を実施する。 イ 自給飼料生産（肉研） R5 年度から放牧地を有効活用するために放牧地の草地更新（R5 年度：2 区 145a、R6 年度：3 区 130a）を実施している。 R7 年度も引き続き場内の放牧地の牧養力強化のために草地更新を実施する。 ウ 加工指導対策 園児、児童を対象とした畜産物加工体験（アイスクリーム、バター作り）を実施する。																			
<過去の予算額> 令和 4 年度 3,785 千円 令和 5 年度 2,947 千円 令和 6 年度 2,947 千円																			

令和 7 年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室・生産技術研究室・養豚研究所）

課 題 名	国補施設整備費	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単
試験期間	令和 7 年度		
予 算 額	2 7, 2 8 1 千円		
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業		
1 事業の目的 試験研究テーマに対応するため、分析機器の保守・点検を行う。			
2 事業の内容 (1) 補助率 10/10 (2) 整備内容 (修繕料・委託料) 精密分析機器保守点検 ア 畜産センター 8,454 千円 匂い嗅ぎ装置付ガスクロマトグラフィ質量分析計 ガスクロマトグラフ 高速アミノ酸分析計 他 7 件 (備品購入費) ア ディープラーニング解析装置 原子吸光分光光度計一式 HAP 試験装置 他 3 件 18,827 千円			
<過去の予算額> 令和 4 年度 19,986 千円 令和 5 年度 59,309 千円 令和 6 年度 29,444 千円			